

平成23年度 市民活動支援センター事業報告

I 平成23年度事業総括

市民ニーズが多様化する中、市民が自ら主体的に社会参加する活動への支援をおこないました。

市民活動支援センターの運営では、「人はつながりながら生きていく」というテーマで『えんがわフェスタ2012』を行い市民のつながりの重要性を認識し、またランチでは近隣住民など地域のコミュニティをつなぐ機会として市民活動交流事業を実施するにあたり、調布のまちで活躍する多くの市民のつながりが大きな力となりました。

市民活動団体の支援、ボランティアコーディネート、広報活動、人材育成に関する事業も継続して取り組んでまいりましたが、更に発展するために必要に応じて改善を行なう必要があります。

東京都社会福祉協議会から住民活動支援モデル事業を受け、コーナーを中心とした小地域福祉活動推進を住民の皆様と作り上げていくため、地域福祉コーディネーターの役割を模索した1年でもありました。職員が地域に出て行き市民のお互いさまの関係を束ね、生活の身の回りにあるちょっとした優しさを積み重ねて、支援が必要な方の見守りや安否確認、いざという時の避難誘導、社会問題になっている孤独死の解決への道筋ができるよう事業をすすめてまいります。

市民活動支援に関するアンケート調査で、市民活動支援センターに求められる役割としてニーズの高い「情報」に関する支援の一環として、団体の広報力アップにつながる専門的講座を開催しました。高齢者への熱中症講座や中学生向けの認知症サポーター養成講座なども、地域の包括支援センターや学校、企業との連携で行い、地域課題の解決にあたっては、様々な立場の市民、団体との日頃からの連携が重要であることを実感しました。

東日本大震災に襲われ被災した方々が避難されていた味の素スタジアムに被災者支援ボランティアセンターを立ち上げ、生活のサポート等をさせていただきました。市民活動支援センターがこれまで培ってきた『ちょうふチャリティーウォーク』での企業ネットワークなどに支えられ、地域の団体や市民ボランティアが主体となり運営できたことは、防災意識を高め、今後の有事への備えに向け一定の方向性を示した出来事となりました。引き続き復興支援にも取り組むことが必要です。

人と人が結びつく市民活動の重要性を再認識し、中長期的な視点に立脚した運営をすすめてまいります。

II 個別事業

番号	事業名	決算額(17,243,616円)			
(1)	市民活動支援センター運営	自主	補助	委託	利用
				市協	

番号	事業名	決算額(23,884,785円)			
(2)	ボランティア活動推進	自主	補助	委託	利用
		会歳	市総		○

第1 センターおよびランチの運営

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

○住民の主体的な活動を支援し、市民参画型のまちづくりを積極的に進めるため、毎月1回市民活動支援センター運営委員会を開催し、センター事業についての協議を行った。

(1) 市民活動支援センター運営委員会

任期：平成23年4月1日～平成25年3月31日（敬称略・50音順）

氏名	主な活動、所属など
相田 英俊	国領商盛会
安藤 雄太	市民活動支援センター長
伊藤 義純	公募委員（深大寺東町）
上田 英司	特定非営利活動法人NICE
枝見 太朗 (副委員長)	財団法人富士福祉事業団
尾関 葉子 (副委員長)	DADAアフリカと日本の開発のための対話プロジェクト
佐久間 忠夫	調布市コミュニティ推進協力員
杉山 裕子	子育て支援ネットワークちょこねっと・元サンケイリビング編集長
高山 和久	東京ボランティア・市民活動センター
中村 弘	調布市生活文化スポーツ部協働推進課
橋本 郁子	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
花山 美奈子	臨床心理士・調布市子ども家庭支援センターすこやか
日比生 信義 (委員長)	林建設株式会社
三上 裕之	調布わいわいサロン
山本 縁	調布市登録手話通訳者
横山 泰治	公募委員・NPO法人ちょうふどっとこむ

(2) 平成23年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	5月9日	運営委員委嘱状交付、自己紹介、市民活動支援センター運営要綱について、正副運営委員長および常任委員の選任、平成22年度事業報告および決算報告、平成23年度えんがわファンド選考委員会内規(案)および選考委員の選任について、平成23年運営方針、被災者支援ボランティアセンター近況報告、広報部会報告
第2回	6月27日	東日本大震災被災者支援について、地域福祉コーディネーターについて、平成23年度えんがわファンド選考結果、平成23年度事業計画重点項目について、各部会進捗状況報告
第3回	8月2日	えんがわフェスタの実施について、市民活動支援センターの中長期推進方策の策定に向けて、各部会の取り組みについて、東日本大震災現地支援の取り組みについて、地域福祉コーディネーター関連の取り組みについて
第4回	9月6日	えんがわフェスタ2012について、各部会・プロジェクトの進捗状況報告、被災者支援ボランティアセンター関係報告、地域福祉コーディネーター関係報告
第5回	10月28日	えんがわフェスタ2012について、各部会・プロジェクトの進捗状況報告、被災者ボランティアセンター関係報告(復興支援ボランティア派遣ほか)、地域福祉コーディネーター関係報告、市民活動支援センターホームページリニューアル進捗状況
第6回	11月25日	えんがわフェスタ2012について、各部会進捗状況報告、被災者支援ボランティアセンター関係報告、地域福祉コーディネーター関係報告
第7回	1月11日	平成24年度市民活動支援センター事業方針(案)、市民活動支援センター中長期運営方針【ビジョン】(案)、えんがわフェスタ2012について、各部会進捗状況報告、被災者支援ボランティアセンター関係報告、地域福祉コーディネーター関係報告
第8回	2月7日	平成24年度市民活動支援センター事業方針(案)および事業計画(案)、市民活動支援センター中長期運営方針【ビジョン】(案)最終稿、えんがわフェスタ2012について、各部会進捗状況報告、被災者支援ボランティアセンター関係報告、チャリティーウォーク実行委員会報告
第9回	3月6日	平成23年度特別会計補正予算(案)について、平成24年度市民活動支援センター事業計画(案)および予算(案)について、平成24年度えんがわファンド募集要項について、えんがわフェスタ2012について、各部会進捗状況報告、その他

2 市民活動支援センター運営委員会専門委員会の設置

(1) 広報部会

結果の概要

- 市民活動支援センターとしてどのような情報を発信していくべきか検討した。
- 昨年度の「市民活動支援に関するアンケート調査」で、団体へ行った調査結果では、市民活動支援センターの支援機能のうち、特に力を入れるべき機能として「情報に関する支援」を32.3%の団体が選択していた。これを受けて、広報部会で広報講座を企画し実施した。
- えんがわだよりの目指す方向を再確認した。えんがわだよりは手に取った方が「関われる・関わりたい」と思えるニュースレターを目指し、文字量を減らす新しい企画を設けることをしながら、より読みやすく親しみやすい紙面構成を考えることができた。

① 担当委員

氏名	主な活動、所属など
杉山 裕子	子育て支援ネットワークちょこねっと・元サンケイリビング編集長
三上 裕之	調布わいわいサロン
横山 泰治	公募委員・NPO 法人ちょうふどっとこむ

② 会議の開催状況

	日程	内容	出席者数
第1回	5月19日(木)	えんがわだより半期スケジュール検討	2人
第2回	8月18日(木)	えんがわだより9月号、10月号の検討	3人
第3回	9月10日(土)	えんがわだより10月号 えんがわだよりの位置づけを再検討	3人
第4回	10月18日(火)	えんがわだよりの位置づけを再検討 専門講座(広報講座)について	1人
第5回	11月8日(火)	専門講座(広報講座)開催に向けての意見交換	2人
第6回	12月13日(火)	専門講座(広報講座)開催に向けての意見交換	3人
第7回	1月11日(水)	専門講座(広報講座)開催に向けての意見交換	2人
第8回	1月19日(木)	広報講座開催に向けて(講師の原子様を交えて)	3人
第9回	2月4日(土)	広報講座1日目	3人
第10回	2月21日(火)	広報講座1日目の反省と2日目に向けて	3人
第11回	2月25日(土)	広報講座2日目	3人

分析・課題等

○今後もえんがわだよりのみならず、団体の広報・センターの広報について広報部会で話し合っていきたい。

(2) 災害部会

結果の概要

- 本年度は9月から災害部会を立ち上げ新メンバーによる検討を開始した。過去の災害部会の取り組み内容を踏まえ、本年度取り組むべき内容を検討した。
- 本年度の災害部会での具体的な取り組みとして「そなエリア」視察を実施することができた。この視察には市民活動支援センター運営委員やスタッフのみならず、協働推進課職員や地区協議会や自治会連合協議会の役員も参加し、情報交換や交流の機会になった。また、防災体験施設での学習を通じて災害発生時の状況を想像する機会にもなった。防災訓練を企画する側の方々に情報提供をすることが狙いでもあったので、視察実施後、ある地区協議会より同地区協議会主催で「そなエリア」視察を検討したいとの相談を受けたことは成果であった。
- えんがわだより3月号の特集記事で「防災・減災と人のつながり」のテーマで災害部会として内容を検討し作成した。委員の方々も防災講演会に参加するなど情報収集に努めた。

①担当委員

氏名	主な活動、所属など
相田 英俊	国領商盛会
上田 英司	特定非営利活動法人NICE
橋本 郁子	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
山本 縁	調布市登録手話通訳者

②会議の開催状況

	日程	内容	出席者数
第1回	9月1日(木)	本年度の取り組みの方向性・内容の検討	3人
第2回	10月3日(月)	①災害ボランティアセンターとしての役割・機能 ②地域のネットワークづくり ③地域の人材育成・発掘 ④「災害ボランティアセンター準備室」立ち上げに向けて ⑤総合防災訓練の内容や動きの確認	3人
第3回	11月18日(金)	①「活動する一般市民」対象の講座内容検討 ②地域のネットワークづくりに向けての協定内容	4人

		の確認作業 ③事務局のマニュアル作成 ④総合防災訓練振り返り	
第4回	12月20日(火)	①「活動する一般市民」対象の講座検討 ②地域のネットワークづくりに向けて過去の災害ネットワーク会議資料の整理 ③広報部会からの打診への対応 (えんがわだより3月号特集記事作成)	4人
第5回	1月26日(木)	①「そなエリア」バス視察の検討 ②えんがわだより3月号特集記事の内容検討 ③災害ネットワークデータ整備 (味スタ避難所支援関係情報追加) ④災害ボランティアセンター立ち上げ検討	3人
第6回	2月21日(火)	①「そなエリア」バス視察の振り返り ②えんがわだより3月号特集記事の内容検討	2人

③災害部会企画「そなエリア」視察

日時	2月15日(水) 午前9時00分～午後2時30分
視察地	防災体験学習施設「そなエリア東京」 東京都江東区有明3-8-35 東京臨海広域防災公園内
参加者	20人 地区協議会・自治会連合協議会役員11人、協働推進課職員1人、 市民活動支援センター運営委員5人、市民活動支援センター職員3人
内容	首都直下型地震発生時の対応などの体験学習、 災害イメージを深めるアニメ鑑賞ほか

分析・課題等

○災害時における連携・協働のネットワーク、災害ボランティアセンター立ち上げ準備、市民への啓発や担い手を見つけるなどの取り組みを中心に検討を進めてきた。次年度も引き続き検討していく必要がある。

3 市民活動支援センター運営委員会中長期運営方針策定プロジェクトの開催

結果の概要

○平成23年度事業計画書の重点項目への取り組みとして、運営委員による中長期運営方針策定プロジェクトを編成し市民活動支援センターの今後のあり方を検討した。調布市基本構想の中に反映できるよう運営委員会として「市民活動支援センター中長期運営方針」を提出し、担当部署である調布市生活文化スポーツ部協働推進課と協議する。

①担当委員

氏名	主な活動、所属など
日比生 信義	市民活動支援センター運営委員会 運営委員長 林建設株式会社
枝見 太朗	市民活動支援センター運営委員会 副運営委員長 財団法人富士福祉事業団
尾関 葉子	市民活動支援センター運営委員会 副運営委員長 DADAアフリカと日本の開発のための対話プロジェクト
横山 泰治	市民活動支援センター運営委員会 運営委員 公募委員 NPO法人ちょうふどっこむ
伊藤 義純	市民活動支援センター運営委員会 運営委員 公募委員

②会議の開催状況

	日程	内容	出席者数
第1回	8月22日(月)	過去の資料を参考に中間支援組織として求められる役割や重要と思われる点について意見交換	6人
第2回	9月12日(月)	過去の資料を参考に中間支援組織として求められる役割や重要と思われる点について意見交換	6人
第3回	11月7日(月)	中長期運営方針の構成と内容の検討	5人
第4回	12月8日(木)	中長期運営方針案の検討	5人
第5回	2月3日(金)	運営委員会での検討内容を踏まえての中長期運営方針案の検討	5人

分析・課題等

○今回策定した中長期運営方針を実現するための目標設定と目標達成に向けての具体的な取り組みの実践が重要と思われる。

4 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

○広く利用者の声を直接聞く機会を設けるとともに、利用者間の横のつながりを活性化することを目的として実施。18年度より「えんがわミーティング」という名称で周知している。

日 時	3月28日(水) 午後1時00分～2時00分
会 場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
内 容	日頃から市民活動支援センターを利用していただいている利用者から、普段センターを利用して感じること、気付いたことなどを率直にお話しいただいた。センターと利用者の情報交換だけでなく、利用者同士の情報交換にもなり、活動スペースの中にも気遣い合う関係性を生むこともできた。

5 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

- 自立した市民社会の創造、住民参加型のまちづくりの実現を目指すセンターの方針に賛同し、センター運営を資金面から支えていただくサポーター会員制度が設置されて6年経過した。サポーター会費は市民活動助成事業「えんがわファンド」の原資として活用した。
- サポーター会員数：39（内訳：団体…35、個人…4人 ※複数口の加入もあり）

分析・課題等

- 多くの市民に目的を理解していただき、会員数を増やすことが課題である。

6 市民交流事業の実施

結果の概要

- 地域の課題に目を向け、解決に向けた仲間作りを目的としてえんがわフェスタ2012「人はつながりながら生きていく」を開催。
- 関心を持って参加して下さった地域の方々とともに、さまざまなテーマについて、講演会、ワークショップ形式で考え、学ぶことができた。
- オープニングセッションでは西條氏より東日本大震災が与えた影響と、そこから見えた石巻と調布市のつながり、これからの在り方などをお話いただいた。
- 運営委員会が主体的に取り組み、オープニングとクロージングの他に4つの分科会を企画し実施した。運営委員会から地域に向けて、様々な立場から見た「つながり」について投げかけ、ともに考え学ぶ機会を持つことができた。

開 催 日	3月18日(日) 午前10時～午後5時		
会 場	調布市市民プラザあくろす		
来 場 者 数	106人		
主 催	調布市市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

(オープニングセッション)

時間	タイトル	出演者など	会場
13:00~13:50	石巻⇔調布 復興へつながろう！	西條 允敏氏 (株)街づくりまんぼう代表 取締役/石ノ森萬画館指 定管理者	あくろす2F はばたき

(分科会)

時間	タイトル	出演者など	会場
10:00~15:50	「みんなでつくろう！つながるCM」～あなたの市民活動1分PR撮影大会～	協力 :ちょうふネットテレビ 他	あくろす3F あくろすホール
14:00~15:50	「ツイッターって何？」 ～つなごう！みんなの声～	講師：NPO法人ささえ手	あくろす2F 会議室1
14:00~15:30	「行政・企業・市民の連携」 ～復興支援から考える調布の明日のつながり～	コーディネーター：嵐祐子 パネリスト：三好聡子氏 伊藤栄敏氏	あくろす3F 研修室3
14:00~15:50	「震災を経て考えるマンション居住者の“顔の見えるつながり”」	講演・ファシリテーター :マンションコミュニティ研究会	あくろす2F はばたき

(クロージングセッション)

時間	タイトル	出演者など	会場
16:00~17:00	人はつながりながら生きていく	コーディネーター： 枝見太郎氏	あくろす2F はばたき

7 ブランチ運営

結果の概要

○地域の人たちによって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のランチを運営している。

小島町コーナー、西部コーナー、染地コーナーの3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日開所となっている。

(1) 小島町コーナー

①ボランティア活動室利用者会議の開催

結果の概要

○市民活動支援センター・小島町コーナーでは、ボランティア登録団体に活動室やメールボックス等の貸し出しを行っている。

○この会議では、活動室利用方法の確認と、活動室利用団体にとってより円滑に利用できる活動室をめざし、ルールづくりを目的として開催している。

- 年に1度開催しボランティア団体の活動紹介や情報交換など団体間の交流を深める有意義な会議となっている。
- 棚やメールボックスを希望する団体に対して物品の保管場所にならないよう再確認した。また、あらたに棚を希望する団体の調整をした。
- 市民活動支援センター小島町コーナー開所日変更に伴い、土曜日の申請書の提出が必要である事を再確認した。また、申請方法としてFAX・メールでの申請も受付が可能になったことを確認した。
- キャンセルの連絡について、キャンセルが決まった時点ですぐに連絡を入れていただくようあらためてお願いをした。
- 活動日の変更を希望する団体の調整をした。
- あらたに活動室利用を希望する団体の調整をした。
- 会議を重ねるごとに、団体同士の理解が深まり協力関係ができてきた。

②専門講座の開催

日 時	7月 5日（火） 午後1時30～4時
会 場	総合福祉センター2階 201・202会議室
テーマ	ボランティア はじめの一步 ～ボランティア活動の普及と定着のために必要なこと～
講 師	大村 洋永 氏（至誠学舎立川至誠ホームスオミ園長）
内 容	ボランティアを受け入れている施設や団体のマネジメント力を高め、受け入れ側、ボランティア側双方にとって、意義のある活動プログラムを展開していけるよう受け入れ担当者とともにコーディネートスキルを高める機会とする。
参加団体	高齢者施設 14 障がい者施設 8 青少年支援 1 ボランティア団体 1 参加者数 34名

結果の概要

- 日頃より市民活動センターに、ボランティア募集について相談のある調布市内の高齢者施設、障がい者施設、団体を対象に豊富な高齢者施設での経験のある大村氏に依頼、具体的なエピソードを取り入れた講座を開催した。
- 各施設ボランティア受け入れ担当者にとって「ボランティアを受け入れるための心構え」や「ボランティアの気持ちを受けとめ継続していくためには、何が必要なのか」をあらためて考える機会となった。
- 講座の中に組み込んだグループに別れてのディスカッションは、施設間の交流を深めると共に、ボランティア受け入れる上で直面する課題を共有し、お互い共感することができた。

分析・課題等

○平成24年度では、引き続き調布市内の各施設を対象に、ボランティアを受け入れることで生じるであろう、さまざまなリスクの対処法をテーマに「リスクマネジメント」講座を企画する予定である。

③調布ボランティアまつり（23年度未実施）主催：調布ボランティアまつり実行委員会 結果の概要

○調布ボランティアまつり実行委員会の主体的な事業で、市民活動支援センターが支援する形で準備をしていたが、参加希望団体が集まらなかったことが主な理由で今年度は中止になった。

分析・課題等

○初回から30年間で社会情勢も大きく変わり、調布ボランティアまつりもその影響を受けながら参加団体や来場者が減少していた。原因として参加団体のモチベーションの低下や会場などの物理的な問題、何のために調布ボランティアまつりを行うのかという「まつりの目的」の多様化やメンバーの高齢化・固定化、準備の負担感、マンネリ化など様々な課題が挙げられる。

○NPO団体や企業の社会貢献活動などが活発化したことで「ボランティア」の位置づけも変化し、まつりの目的（活動資金確保・広報）に必要性を感じなくなっている現状もある。

○現在、各団体の活動拠点近くのコーナーボランティアまつりに参加し、地域に密着した参加をすすめている。

(2) 菊野台コーナー

①第20回菊野台ボランティアまつり

開催目的	菊野台地区で活動しているボランティアグループ、およびボランティア活動に関心がある人が一堂に会し、日頃の活動を紹介するとともに、相互交流をはかり、ボランティア活動に関する情報提供、および地域の人々への啓発を目的として行う。
日時	5月29日（日）午前10時～午後3時
内容	ボランティアグループの紹介・体験コーナー（点字）、模擬店、ミニバザー、外国人による日本語スピーチ、中学生の合唱とバザーコーナーでの販売協力、住宅修理相談コーナー、包丁とぎ、鉢物の販売、情報交換、交流、啓発、各種相談コーナー
会場	菊野台地域福祉センター
参加者数	参加団体25団体 来場者約380人
運営	菊野台ボランティアまつり実行委員会

②菊野台地域のつどい（小地域交流事業）

事業内容	地域の中で一人ひとりが知り合い、互いに支え合って安心した生活が送れるよう、交流の場づくりと世代間交流を目的として開催する。 地域の自治会や民生委員、老人会、ボランティアが実行委員になり企画運営していく。
開催日時	11月23日（日） 午前10時～午後3時
会場	菊野台地域福祉センター
参加者数	参加団体20団体 来場者数250人

③菊野台ボランティア連絡会の開催

結果の概要

○菊野台コーナーを拠点に活動しているボランティアの交流や情報交換を目的に約3ヶ月に1回開催した。

（開催日時） 11月29日（火）10:00～11:30 （参加者） 13人

1月24日（木）10:00～11:30 17人

（会場） 菊野台地域福祉センター

分析・課題等

○菊野台コーナーを拠点に活動している団体が減少している。ボランティアまつりの開催も今後継続して続けるか話し合が必要。しかし活動しているグループはボランティアまつりの中核となり、自主的な意識を持ち、積極的に活動している。

（3）富士見コーナー

結果の概要

○富士見は10グループのボランティア、市民活動団体、ひだまりサロン、が活動している。また、毎年6月に世代を超えて地域の住民が参加できる交流の場として「富士見ふれあいのつどい」を開催している。

分析・課題等

○ボランティアグループのメンバーは毎年減少しつつあるため、グループの活性化と若返りを図るためには新たな参加者を増やす努力が今後必要である。今後も、地域市民が繋がりを持ってお互いに励まし合い、安心して暮らせるように既存の市民活動団体を支援しつつ、新たな市民活動団体の立ち上げを推し進めていきたい。

①平成23年度富士見ふれあいのつどい（小地域交流事業を兼ねる）

結果の概要

○舞台発表で2つの団体から子どもたちの発表があり、また、竹トンボ作りも新しく出店して多くの子供たちが参加してお祭りが活気づいた。

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	平成23年6月18日(土) 午前10時～午後3時半
会場	富士見地域福祉センター
内容	舞台発表、模擬店、リサイクルバザー、自主製品展示・販売、各種相談コーナー、ゲームコーナー、工作コーナー、参加型イベント
参加者数	参加団体29団体、来場者450名
運営	小地域交流事業「富士見ふれあいのつどい」実行委員会

分析・課題等

○今後も趣向を凝らして、世代交流ができるイベントにしていくことが課題である。

②「うたごえ喫茶 IN 富士見」(平成23年度小地域交流事業)

開催目的	老若男女問わず、懐かしい唱を皆と一緒に声を合わせて歌うことで、楽しみながら元気になるふれあい交流の場づくりとして、毎月1回定期的に開催している。		
日時	① 平成23年 4月16日 73人 ② 平成23年 5月21日 44人 ③ 平成23年 7月16日 46人 ④ 平成23年 8月20日 54人 ⑤ 平成23年 9月17日 51人 ⑥ 平成23年10月15日 64人 ⑦ 平成23年11月19日 46人 ⑧ 平成23年12月17日 76人 (クリスマス交流会) ⑨ 平成24年 1月21日 50人 ⑩ 平成24年 2月18日 68人 ⑪ 平成24年 3月17日 53人 いずれも土曜日午後1時半～3時半		
会場	富士見地域福祉センター大集会室		
伴奏	ピアノ 佐伯恵美氏、小沢健太郎氏	参加費	300円(歌集、飲み物つき)
参加者数	延べ625人 (各回平均 56人) ※市内全域から参加の高齢者が昔を懐かしむように歌っている。		
運営	小地域交流事業「うたごえ喫茶 IN 富士見」実行委員会		

分析・課題等

○市報やふくしの窓をみて、初めて参加する人が増えた。家にこもりがちな高齢者の方々の居場所作りとして、楽しみにしているという声を頂いたので、今後も継続して行っていきたい。

③「ボランティア交流会・ふれあいのつどい準備会」(小地域交流事業)

日 時	平成23年2月25日(土) 午前10時～12時半
会 場	富士見地域福祉センター大集会室
内 容	富士見コーナーを拠点に活動している団体や施設との情報交換と交流
参加者数	20人 (スタッフ 3人)
予 算	小地域交流事業費 お弁当
運 営	富士見コーナー

分析・課題等

○富士見地域で活動するグループが年に1回、交流を深めるために開催している。前年度より団体数は減ったが、ふれあいのつどいに向けての準備会でもあるため、今後も継続して開催したい。

④西部地域ネットワーク共催による「認知症の方を地域で支えるための講座」

日 時	内 容	参加者数	備 考
9月 1日	認知症サポーター養成講座	23	共催：調布市高齢者支援室
9月15日	認知症の方への対応 ～こんなときどうする	25	共催：地域包括支援センター ちょうふの里・せいじゅ・ちょうふ花園
9月29日	介護保険制度・福祉サービスについて	25	共催：地域包括支援センター ちょうふの里・せいじゅ・ちょうふ花園

※富士見地域福祉センター大集会室にて

※「西部地域ネットワーク」は3つの地域包括支援センター(せいじゅ・ちょうふの里・ちょうふ花園)と市民活動支援センターブランチ(西部・富士見)により構成されている。

分析・課題等

○認知症に関する講座への関心は毎年高まっており、調布市内全域から30代～80代までの幅広い世代の方の参加があった。講座は地域包括支援センターせいじゅ・ちょうふの里・ちょうふ花園と共催で開催した。講座を受けた方から、認知症の事が良く理解できたという声が多かったため、今後も継続していけるような企画を考え協働していきたい。

⑤西部地域ネットワーク会議

	日 時	内 容	参加者数
第1回	H23年5月12日	H23年度協力事業について	9
第2回	H23年7月28日	富士見地域福祉センターでの講座について	6
第3回	H23年9月1日	講座反省会と次回打合せ	9
第4回	H23年9月15日	講座反省会と次回打合せ	9
第5回	H23年9月29日	講座反省会と次回打合せ	9
第6回	H23年11月1日	次回講座の打合せ	7
第7回	H24年1月24日	次回講座の打合せ	9
第8回	H24年2月22日	講座反省会と次回打合せ	8
第9回	H24年2月29日	講座反省会と次回打合せ	10

分析・課題等

○平成22年度から「認知症の方を地域で支えるための講座」を通じて引き続き連携を図っています。講座の開催や情報交換もスムーズに行われるようになった。

(4) 染地コーナー

結果の概要

○春の「ボランティアまつり染地」と秋の「染地ふれあいのつどい」は染地地域福祉センター全館を使用しておまつりで、各団体の交流の場、地域のつながりの場として欠かすことが出来ない行事となっている。しかし、ここ数年、2つのおまつりの特徴が似てきたため、再度おまつりの目的、意義などを検討する時期を迎えている。

①平成23年度染地ふれあいのつどい（小地域交流事業を兼ねる）

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年2回開催している。
日 時	平成23年11月20日（日）午前10時～午後3時 平成24年3月6日（火）午前10時～午後1時（パートⅡ）
会 場	染地地域福祉センター
内 容	舞台発表、模擬店、ミニバザー、各種相談コーナー、あそびコーナー メガネのクリーニング、展示コーナー、図書館の本リサイクル （パートⅡ） 緊急時の手当 体験コーナー
参加者数	参加団体36団体、来場者250名
運 営	小地域交流事業「染地ふれあいのつどい」実行委員会

分析・課題等

○ボランティア、民生委員、自治会などを始めとする地域住民の協力がなければ、おまつりは成り立たない。高齢者の参加は多いので、これからは子供も参加できるプログラムを考えていくことが課題である。

②第15回ボランティアまつり染地

結果の概要

- 第三中学校吹奏楽部が舞台と各係の手伝いで参加し、イベントに活気が出た。
- 晴天となり、外の模擬店や子供あそびコーナーが大盛況であった。

開催日時	5月15日(日)午前10時～午後3時
会場	染地地域福祉センター
内容	舞台発表・展示・体験・子供あそびコーナー、模擬店、バザーなど
参加者	約400人
主催	調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター
運営	第15回ボランティアまつり染地実行委員会
テーマ	みんな おいでよ ともだちになろう 地域をつなぐ 大きな輪

(参加団体 32団体)

	団体名	内容
1	カフェ染地	コーヒー、パウンドケーキの販売
2	切手かわせみ	活動紹介、バザー
3	クラフト教室	折り紙体験コーナー
4	NPO法人高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム	舞台(合唱)、模擬店(あんみつ)、バザー
5	高齢者会食ボランティア	お茶のサービス
6	琴仲間「染地」	舞台(琴の演奏)
7	古布を楽しむ会	手作り作品の販売
8	お話ころりん	舞台(民話語り)
9	手話さくらんぼ	舞台(紙芝居、手話コーラス)
10	染地彩の会	輪投げコーナー
11	染地うたごえ広場プロジェクト	舞台(参加者の皆さんと歌います)
12	染地かいわい	模擬店(サタアンダギー)バザー、活動紹介
13	染地かいわい絵手紙ものの会	絵手紙体験
14	調布市立図書館染地分館	本のリサイクル
15	だいこん葉の会	模擬店(豚汁、炊き込みご飯)

16	第三中学校吹奏楽部	舞台（演奏）、ボランティア活動
17	第三中学校吹奏楽部保護者会	バザー
18	東京お手玉の会・昔あそびを楽しむ会	お手玉、ベーゴマなど
19	都営染地三丁目自治会	会場、備品などの貸与
20	都営染地三丁目自治会防災部	模擬店（焼きそば）
21	ドーマン体操	模擬店（水餃子）
22	ときわぎ国領デイサービスセンター	模擬店（フランクフルト）
23	地域包括支援センターときわぎ国領	舞台（みまもっと体操）
24	多摩川住宅ト号棟自治会	販売（エコタワシ）
25	和大正琴の会	舞台（大正琴の演奏）
26	フラ・ハナレイ	舞台（フラダンス）
27	包丁ときボランティア	包丁とき
28	染地ボランティア連絡会世話人会	外回りのボランティア
29	染地ボランティア連絡会パソコン教室	映像で参加団体紹介
30	眼鏡職人	メガネのメンテナンス
31	メンコ屋六文堂	メンコづくりなど
32	市民活動支援センター染地コーナー	活動紹介

（実行委員会の開催状況）

回数	開催日時	開催場所	内容
第1回	1月22日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 大集会室	実行委員会の立ち上げ、委員長、副委員長の選出、おまつりの目的、テーマについて
第2回	2月19日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 大集会室	参加申込書、実施要領、役割分担、参加内容について
第3回	3月19日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 大集会室	参加内容一覧表に沿って確認、各団体の使用場所の確認、舞台プログラム（案）について
第4回	4月9日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 大集会室	参加団体、内容、必要備品の最終確認、PRチラシ内容、舞台プログラム確認
第5回	4月30日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 大集会室	参加団体、内容、役割分担、必要備品の最終確認、PRチラシ内容、配布、舞台プログラム、前日・当日の準備について
反省会	5月21日（土） 午前10時～12時	染地地域福祉センター 1, 2併用室	ふりかえり

分析・課題等

- 椅子、机などの備品を近隣の自治会から借りる事に無理があるのではないかな。
- テント張りなどの力のいる仕事のボランティア不足。若い世代に参加を呼びかける工夫が必要である。
- 震災後のおまつりのため、売上金を義援金として寄付する団体が多かった。ボランティアまつりが地域の中でのボランティアについて考える機会になることを期待したい。

③染地ボランティア連絡会の開催

事業内容	個々で活動しているグループがお互いの活動を知り情報交換をしながら、交流を深めることを目的とする。連絡会・染地コーナー共催でイベントや講習会などを開催した。
会議	7月16日(土) 10時~12時 12人 (内容) 染地ボランティア連絡会の活動について
春休み親子体験教室	平成23年3月31日(土) パソコン教室・お手玉・大正琴
会場	染地地域福祉センター

分析・課題等

- メンバーの固定化が課題。ボランティア活動を広い視野で捉え、地域住民が自分の住んでいる場所で自分らしく過ごせることを実感できることが必要である。

(5) 緑ヶ丘コーナー

①第11回緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい(ボランティアまつり・小地域交流事業)

結果の概要

○地域の福祉施設、学校、自治会、老人クラブ、まちづくり会議(地区協)、地域のボランティアグループ、健全育成団体などが交流をおこなうことで、地域福祉の向上と地域の活性化と世代間交流を図ることを目的に開催した。今年度より、児童館まつりと別々の開催にもどした。※再掲

日時	11月13日(日) 午前10時~午後3時30分
会場	緑ヶ丘地域福祉センター全館
内容	○舞台：●マジック【アリス】さんのコーナー、手話コーラス(手話らんど&あいことば)歌と踊り(ふれあい給食)コーラス(童謡をうたう会)歌(高齢者会食・ミニデイ)フラダンス(緑風会)和太鼓演奏(円座)和太鼓演奏(緑ヶ丘児童館)よさこい(よさこいチーム)合唱(グリーンサロン)ダンス(ブレスユー

	<p>ダンスカンパニー) 司会 (八中生徒)</p> <p>○展示・模擬店：、クッキー販売(希望の家)、お茶席(緑樹会)、焼きそば(ボーイスカウト調布第10団)、お団子販売(2丁目自治会) カフェ&生チョコ・バザール(ボランティア連絡会) 野菜販売(木島平新鮮屋) 地元野菜販売、作品販売(キルト布布) (たんぽぽ) ポプコーン販売(1丁目自治会)</p> <p>○【子供コーナー】 魚釣り(健康麻雀サロン) 紙飛行機(そば打ちクラブ) 折り紙(折り紙くらぶ)</p> <p>○その他参加：仙川地域包括支援センター、児童・民生委員、緑ヶ丘・仙川まちづくり会議、緑ヶ丘自治会、親和会自治会、西部自治会、緑ヶ丘小開放委員会、高齢者会食V。</p> <p>※実行委員会 全4回開催</p> <p>第1回 6月16日 参加者24人 第3回 9月8日 参加者29人 第2回 7月7日 参加者27人 第4回 10月13日 参加者30人</p>
参加者数	参加団体33団体、 来場者380人(内 関係者スタッフ 180人)
主 体	緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい実行委員会

分析・課題等

- 児童館まつりと開催日を別に戻したことで、両方のイベントに力を注げたなどプラス面の意見が多かった。
- 新しい内容として、紙飛行機づくりや魚釣りなど、子どもが遊びながら楽しめるものが加わったことで全体のにぎわいに繋がった。
- 次年度から地域センター脇の広場を駐車場としてお借りできなくなるとの話がある。

②「春の音楽会 in 緑ヶ丘」(小地域交流事業 パートⅡ)

日 時	平成24年3月10日(土) 午後1時30分～午後3時30分
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
内 容	一部：マリンバデュオ演奏 二部：地域の音楽家の参加による～みんなで歌おう ※実行委員会(有志参加 計3回開催)
参加者数	100名
主 体	緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい実行委員会 有志

分析・課題等

- 誰にでも楽しめる音楽ということで、子どもさん向けの曲や歌なども取り入れていただけだったので、小さなお子さん連れの方々の姿もあった。
- 演奏を聴いて楽しむということが、小地域交流の目的にかなっているか?との疑問もあるが、今回のように参加型にするなど今後も工夫していきたい。

③夏休み親子手話体験教室（緑ヶ丘コーナー）

結果の概要

- 夏休みを利用して、親子で手話を体験していただき、耳の聞こえない方からの生活についてのお話を伺うことで、小さい頃から障がいについて身近に感じてもらう。
- 手話サークル「あいことば&らんど」への参加を促した。
- 終了後、1組の親子がサークル「手話あいことば」へ入られた。

日時	会場	内容	参加者
7月23日（土） 13:30～15:00	緑ヶ丘地域福祉センター	・手話で挨拶 自己紹介 ・簡単な手話	親子2組 その他8人
7月30日（土） 13:30～15:00		・手話で簡単な会話 ・聴覚障がいの方からお話	親子2組その その他6人

分析・課題等

- 以前ほど手話への関心度は高くないが、親子で楽しみながら手話を身近に感じることができると貴重な場であると思うので、開催していきたい。

④緑ヶ丘ボランティア連絡会の開催

結果の概要

- 緑ヶ丘コーナーを拠点として活動しているボランティア7団体の交流・支えあいを目的に、話し合いを持ちながら、より良いボランティア活動について模索する必要がある。

日時	内容	参加者数
4月26日	・22年度の活動報告と会計報告 ・23年度のそれぞれの団体の活動について	8人
12月15日	・11月13日ふれ愛のつどいの報告 ・懇親会	11人

分析・課題等

- 各ボランティアグループの横のつながりのために役立っている。
- ボランティア団体の交流を目的に、参加しやすい交流会を随時開催も必要である。

(6) 西部コーナー

結果の概要

- 西部コーナーは「まちのえんがわ」として地域の方々が利用され、折り紙をじて児童館や若い世代との交流を図っている。新たに「健康マーじゃん」も始まった。

分析・課題等

○継続して近隣の地域包括支援センターとの連携を深めながら、安心して暮らせる地域づくりを考えていきたい。

①西部ふれあいのつどい（小地域交流事業）※再掲

開催目的	地域にある福祉団体や施設などが参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	10月9日（日）午前10時～午後3時
会場	西部地域福祉センター
内容	舞台発表、血圧測定、めがねの洗浄、焼菓子販売 西部コーナー折り紙東日本大震災募金 防災倉庫の備品の展示とアルファ米の試食
参加者数	来場者 260人
運営	小地域交流事業「西部ふれあいのつどい」実行委員会

結果の概要

○舞台には、新たに西部児童館よさこい連「道」が出演してくれ、地域交流・世代間交流ができた。

分析・課題等

○西部地域福祉センター内にある防災備蓄倉庫を知っていただくために、前庭にテントを張ることや、防災備品の展示・説明或いはクラッカーやアルファ米の試食など、検討する必要がある。

②西部地域福祉センター 交流のかけはしへの参加

事業内容	地域福祉センターを定期的にご利用している団体が、年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催
開催日時	10月29日（土）・10月30日（日）午前10時から午後3時30分
会場	西部地域福祉センター
参加内容	実行委員会に参加 西部コーナーで活動しているグループの折り紙や切り絵作品等の展示

結果の概要

○今年度は実行委員会に参加させてもらい、利用者団体との交流ができた。

③講座

・西部地域ネットワーク共催による「認知症の方を地域で支えるための講座」

日時	内容	参加者数	備考
2月22日	認知症サポーター養成講座	33	
2月29日	フォローアップ講座 「一緒に考えましょう～悪質商法から身を守るために」	4	

※「西部地域ネットワーク」は3つの地域包括支援センター（せいじゅ・ちょうふの里・ちょうふ花園）と2つの市民活動支援センターのコーナー（西部・富士見）により構成されています。

結果の概要

○サポーター養成講座は当日参加の方も多く、認知症への関心は高い。昨年受講された方にも参加してもらいたいとフォローアップ講座を企画したが、雪のため参加者が少なかった。

分析・課題等

○既受講者にも継続的に学習や交流の場を設け、「地域で支える力」を支えることや、地域包括支援センターとも地域のネットワークづくりのために協働することが必要である。

・「熱中症予防講座」

日時	内容	参加者数
7月28日	熱中症の予防と対策について	37人

分析・課題等

○東日本大震災の影響で計画停電が心配され、地域の方に熱中症に関心をもってもらうために企画。味の素ニュートリション㈱と地域包括支援センターの協力を得た。民間企業の違う角度からの視点を取り入れるためにも、協働を拡大していきたい。日頃地域福祉センターを利用される方の参加が多数参加あり、今後は、若い世代への呼びかけについて、広報の方法等を考える必要がある。

・第五中学校ボランティア部「認知症サポーター養成講座」

日時	内容	参加者数
12月28日	認知症サポーター養成講座	13人

結果の概要

○「西部ふれあいのつどい」への出演をきっかけにつながり、講座を紹介した。地域包括支援センターせいじゅ・ちょうふの里の協力で、冬休みに開催。中学生向けのわかりやすい内容で好評だった。地域での見守りにつながってくれたらと期待している。学校関係との講座に関しての連携も継続して行ないたい。

・西部地域ネットワーク会議

	日 時	内 容	参加者数
第1回	H23年5月12日	H23年度協力事業について	9人
第2回	H23年7月28日	富士見地域福祉センターでの講座について	6人
第3回	H23年9月1日	講座反省会と次回打合せ	9人
第4回	H23年9月15日	講座反省会と次回打合せ	9人
第5回	H23年9月29日	講座反省会と次回打合せ	9人
第6回	H23年11月1日	次回講座の打合せ	7人
第7回	H24年1月24日	次回講座の打合せ	9人
第8回	H24年2月22日	講座反省会と次回打合せ	8人
第9回	H24年2月29日	講座反省会と次回打合せ	10人

結果の概要

○平成22年度から「認知症の方を地域で支えるための講座」を通じて引き続き連携を図っており、講座の開催や情報交換もスムーズに行われるようになった。

(7) 野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

①概要

機 能	①ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開 設 日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸 出 日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ 人数	36人（うち役員6人）

②総会・交流会

日 時	4月30日（土）午前11時～11時30分
内 容	以下の議案を提案し、承認された。 ・平成22年度事業報告 ・平成22年度決算 ・平成23年度事業計画（案） ・平成23年度予算（案）

	・平成23年度役員（案） 総会終了後、交流会及び「野ヶ谷の郷」うたごえ広場を開催した。
参加者	28人、委任状提出5人

③野ヶ谷の郷運営委員会役員（敬称略・50音順）

磯野 幸子（会計）	上ノ原地区青少年健全育成委員
小池 理文（役員）	野ヶ谷の郷運営委員
櫻井 順子（役員）	野ヶ谷の郷運営委員
百合田 紀恵子（会計監査）	深大寺東町ひだまりスタッフ
四家 綾子（代表）	ひだまりサロン立ち上げスタッフ
若林 裕子（副代表、書記）	染地ボランティア連絡会役員

④役員会

回数	日時	内容	参加者数
第1回	6月9日（木） 午前10時～11時50分	総会・交流会振り返り、梅の湯商店会「納涼祭」、連続講座、浴衣着付教室、野ヶ谷の郷だより	5人
第2回	8月16日（火） 午前10時～正午	梅の湯商店会「納涼祭」、連続講座、浴衣着付教室振り返り、野ヶ谷の郷だより	5人
第3回	10月13日（木） 午前10時～正午	梅の湯商店会「納涼祭」振り返り、連続講座、野ヶ谷の郷だより	5人
第4回	12月8日（木） 午前10時～正午	連続講座、野ヶ谷の郷だより	6人
第5回	2月14日（火） 午前10時～正午	連続講座の振り返り、野ヶ谷の郷だより、総会・交流会	5人

⑤野ヶ谷の郷だよりの発行

野ヶ谷の郷や地域の情報を発信するため、「野ヶ谷の郷だより」を計3回（8月号・11月号・3月号）各1、200部発行し、周辺自治会等に配布した。

⑥梅の湯商店会まつり「納涼祭」

梅の湯商店会会員として、商店会まつりに参加した。

開催日時	8月29日（月）午後3時～6時
会場	「梅の湯」駐車場
参加内容	野ヶ谷の郷の開放、出店手伝い

⑦ イベント・講習会

「うたごえ」を通じて楽しみながら交流するイベントや、生活に関連したテーマの講習会を開催した。

内 容	開催日時	講師	参加者数
野ヶ谷の郷「うたごえ広場」	4月30日（土） 午後1時30分～3時		28人
講座「安心相続のためには・・・」	12月8日（木） 午後2時～4時	NPO 法人あんしんシニアサポート理事 宍戸孝至氏	25人

分析・課題等

- 昨年度に引き続き「うたごえ広場」には多くの方が参加した。
- 今回の連続講座の参加者は近隣の方々のみであった。参加者からの質問が昨年度よりも多く寄せられ、関心の高さを感じた。
- 講座内容は講師の具体例や体験談などの話があり、わかりやすかった。
- 次年度も引き続きこのテーマに関する講座の内容を検討していきたい。

第2 情報・資料の収集および提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

- ボランティア・市民活動情報を提供するため、年11回発行。隔月にタウン誌折込みを行うなど配布先拡大、市民の手にわたる配布方法を工夫した。
- 地域の活動団体や活動者・学校の取り組みの紹介、家庭や地域での提案、センターの情報提供など多岐にわたって紹介することができた。
- 広報部会で、えんがわだよりの目指す方向を再確認した。「えんがわだよりは手に取った方が「関われる・関わりたい」と思えるニュースレターを目指す。コーナーに関わってみよう、足を運んでみようと思えるようにコーナーからの情報発信「今月のつぶやき」を実施した。
- 「センターは何ができるのか来てみないと分からなかった」といった利用者からの意見を反映し、2月号から裏表紙に「市民活動支援センターって、何をするとところ？」の掲載を開始した。
- 運営委員によるコラムを掲載することで、多様な視点による紙面づくり、親しみやすい紙面づくりができた。

(1) 概要

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。
編集方針	<p>○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等の市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報発信源とする。 <p>○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題にとりくむ市民活動などをとおして、地域社会の現状と将来について考えていく。 ・さまざまなネットワーキングをとおして、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 <p>○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター事業の報告などを通じ、センターの取り組みを紹介する。
発行日	毎月15日発行
発行部数	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月3, 500部 (タウン誌「182」へ2, 000部折り込み 菊野台地区) ・偶数月1, 750部
配布先	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学、 ・市内企業(郵便局、京王線駅頭など) ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特集記事(課題提起やまちの話題紹介など) ・ボランティア募集 ・市民活動支援センターの活動報告 ・お知らせ(地域の市民活動情報、助成金情報など) ・スタッフのおすすめ ・縁側から見える風景(運営委員コラム) ・教えて枝見先生・和田先生!(副運営委員長枝見氏・元運営委員和田氏による市民活動に関する用語解説) ・今月のつぶやき (各コーナー担当職員による、コーナーなどに関するつぶやき)(1月号～) ・市民活動支援センターって、何をするとところ?(2月号～)

(2) 各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号 (No.66)	緊急レポート 東日本大震災～災害の本当の復興は孤立化させないコミュニティ創り
5月号 (No.67)	無縁社会をこわす⑤～えんがわフェスタ 2011 実施報告～
6月号 (No.68)	平成22年度えんがわファンド助成活動見学レポート①
7月号 (No.69)	平成22年度えんがわファンド助成活動見学レポート②
8月号 (No.70)	平成22年度えんがわファンド助成活動見学レポート③
9月号 (No.71)	初めてのボランティア体験！！～夏ボラ報告～
10月号 (No.72)	これからの復興支援を考える
11・12月合併号 (No.73)	当たり前の生活を見つめ直す
1月号 (No.74)	企業の社会貢献
2月号 (No.75)	えんがわフェスタ 2012 人はつながりながら生きている
3月号 (No.76)	防災・減災と人のつながり

分析・課題等

○奇数月に枝見副運営委員長・元運営委員和田氏にご協力いただき、「教えて枝見先生・和田先生！」を掲載している。「知りたいけれど今更聞けない」といった、市民活動に関する基本の用語解説を紹介することで、市民活動により興味を持っていただけるような記事づくりを目指す。

2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

○平成20年3月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、WEB上で「えんがわだより」の配布をおこなっている。過去記事を含めた掲載のほか、センターの日常風景をスタッフが書き込みアクセス数の増加を図っている。

3 市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

○登録団体数については、市内のNPO法人「ちょうふどっとこむ」や、市内に存在する地区協議会、調布市立図書館の情報発信事業である「市民の手によるまちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在約450の団体登録がある（前年度比70団体増加）。昨年度と比べて大幅な団体数の増加の背景として、調布市内に事務所を持つ特定非営利活動法人（NPO法人）の洗い出しと調布市社会福祉協議会の事業に関わる団体を追加した

ため、大きな増加につながった。

- ホームページの構成については、市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、2007年からは調布市の生涯学習・市民活動情報システム「さがす見つかるシステム」と連動してより多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。
- 機能改善のため、「さがす見つかるシステム」の所管である生涯学習交流推進課とは月に1度、システムの運営会議を行いシステム改善についての意見交換を行っている。さらに、現在毎月紙媒体にて発行されている「えんがわだより」をインターネットでも閲覧できる「えんがわだよりオンライン」を設置し、記事の内容のカラー写真付きの紹介や、スタッフによる日々の市民活動支援センターの様子広報なども行っている。
- 今後も、さまざまなネットワーク間、団体間の情報共有、センター及びコーナーの事業予定を紹介してきながら、センターのサービス内容や報告等に関する情報提供にも力を入れていきたい。平成23年度は105,045件のアクセスがあり、昨年度と比べ9,086件のアクセス増加となった。（昨年度比9.5%の増加率）

月	前年度比	平成23年度 アクセス数	平成22年度 アクセス数	平成21年度 アクセス数	平成20年度 アクセス数
4	330.8%	22,114	6,684	5,384	5,493
5	125.8%	8,488	6,747	5,872	5,879
6	116.3%	8,079	6,945	6,353	5,610
7	152.5%	9,332	6,120	6,292	6,309
8	137.3%	7,881	5,742	6,253	5,393
9	180.7%	10,476	5,797	7,619	5,747
10	132.1%	7,295	5,522	7,412	6,051
11	100.0%	5,839	5,840	6,390	4,917
12	86.2%	4,961	5,757	5,738	5,384
1	102.0%	6,425	6,296	6,809	6,058
2	76.5%	6,917	9,037	7,215	5,828
3	28.4%	7,238	25,472	7,128	6,141
合計		105,045	95,959	78,465	68,810
平均増加率		平成23年度 平均アクセス数	平成22年度 平均アクセス数	平成21年度 平 均アクセス数	平成20年度 平均アクセス数
109.5%		8,754	7,997	6,539	5,734

★ システム運営会議日程

場所：たづくり11階 生涯学習交流推進課

回数	実施日
第1回	4月7日（木）
第2回	5月12日（木）

第3回	6月9日 (木)
第4回	7月7日 (木)
第5回	8月4日 (木)
第6回	9月8日 (木)
第7回	10月13日 (木)
第8回	11月10日 (木)
第9回	12月8日 (木)
第10回	1月12日 (木)
第11回	2月2日 (木)
第12回	3月15日 (木)

分析・課題等

○アクセス数をはじめ、団体ページ、イベントページも平均数はやや増加傾向にあるが、月によっては伸び悩んでいる時期もあった。それに対応して秋頃から新規作業としてボランティア募集記事掲載を試験的に開始した。4月のアクセス数については、東日本大震災の対応にあたり、ボランティア仮登録サイトの立ち上げが影響していると考えられる。

4 資料コーナーの充実

結果の概要

○ボランティアやNPO活動関連だけでなく幅広い分野のチラシやポスターを配架掲示して、イベントや講座の開催、ボランティア募集等の多くの情報を提供した。また、調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野に分けファイルしている。閲覧用の図書や報告書類も積極的に収集している。

(1) 平成23年4月～24年3月に受入れたチラシ等の内訳

内 容	講座・講演	294	分 野	ボランティア ・市民活動支援	177
	イベント	290		福祉・保健	257
	ボランティア募集	24		災害	104
	スタディツアー・ キャンプ	12		まちづくり・地域安全	52
	寄付・募金	20		人権・国際協力・男女 共同参画	106
	団体・活動紹介	99		社会教育	32
	スタッフ・メンバー募 集	50		環境保護	45
	助成金	64		文化・芸術・スポーツ	275
					子ども

	その他	114		その他	218
	計	967		計	1,359
体 裁	チラシ	644			
	ポスター	152			
	パンフレット他	211			
	計	1,007			

(2) 平成23年4～24年3月に受入れたニュースレターの内訳

今年度受け入れタイトル・・・249タイトル

<内訳>

ボランティア・市民活動支援108件、福祉・保健49件、まちづくり・地域安全11件、人権・国際協力14件、環境保護10件、文化・芸術・スポーツ21件、災害5、こども10、その他21件

(3) 主要誌6タイトルを定期購読

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年10回
NPOマネジメント	IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所)	4月号で廃刊
ボランティア	富士福祉事業団	4月号以降休刊
C'sニュースレター	シーズ・市民活動を支える制度をつくる会	隔月刊
NPOのひろば	日本NPOセンター	季刊

※その他の受入雑誌・・・「月間福祉」(全国社会福祉協議会発行)、ホームレスの仕事をつくり自立を応援する「ビッグイシュー日本版」など

(4) 閲覧用図書・報告書類の充実

今年度新規受け入れタイトル：33タイトル

<内訳>

ボランティア概論・NPO法人設立ガイド等9、市民活動支援6、福祉関連11、災害2、その他6

(5) 視聴覚資料の設置

市民活動支援センターがおこなった過去の事業(えんがわミーティングなど)を掲示することにより、当センターの理解を深め、情報を共有することを目的とした。その他に市民活動や地域情報などに関する視聴覚資料も設置している。

市民活動支援センター事業	10
被災者支援ボランティアセンター	1
その他	5
合計	16

結果の概要

- 東日本大震災復興支援に関心をもってもらえるよう「復興の狼煙」パネル展を随時行い、また、調布市被災者支援ボランティアセンターでの活動の様子のDVDの放映やホームページの内容を印刷し、その取り組みを紹介した。
- ボランティア募集や会員募集、またランチ紹介をカラフルな色や手書きで表現した。
- 掲示する広報物・配下する広報物・ファイリングする広報物と情報を整理して提供した。

5 ふくしの窓3-4面「市民活動支援センターだより」の充実

隔月発行（新聞折込）のふくしの窓の3面及び4面の一部を「市民活動支援センターだより」とし、ボリューム・内容ともに充実を図った。

6 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

J-COM株式会社（CATV）、調布FM株式会社、タウン誌（182ch、くろすとーく）、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ）各社のご協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

7 市民活動・生涯学習団体ガイドブックの作成

調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内の市民活動団体（NPO 法人含む）、生涯学習サークルの紹介冊子を作成した。今年度から掲載団体数を記載した。（334団体/平成23年7月時点）

8 地域活動情報紙の発行

地区協議会や自治会、ボランティアやNPO、学習サークルなどの地域活動に特化した情報紙「地域活動情報誌」の発行に協力した。

発行日	2月20日（月）	配布	市内全戸配布
内容	①生涯学習情報コーナーの紹介 ②市民活動支援センターの紹介 ③地域活動を行うことができる拠点の紹介 ④近日開催のイベントの紹介 （フルカラー）		
主催	調布市生活文化スポーツ部協働推進課		
協力	調布市生涯学習交流推進課・市民活動支援センター		

結果の概要

○カラー印刷で全戸配布し、長く手元に持っていただける構成にした。地域活動を行うことができる公共施設の紹介と、活動を始めるまたは円滑に活動を運営するために相談ができる場所として生涯学習情報コーナー・市民活動支援センターを紹介した。

○公共施設の紹介では活動をするにあたり必要な情報を、アイコンで表記するなど工夫をこらした。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなどさまざまな目的に応じてスペースを貸出し、その運営管理を行った。

(1) 市民活動支援センター（国領）来館者およびはばたき利用状況

□来館者数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	3,101人	3,469人	3,987人	4,345人	2,895人	3,260人
一日平均	106.9人	115.6人	137.4人	144.8人	96.5人	112.4人
前年同月比	89%	103%	103%	69%	89%	93%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	3,585人	3,431人	2,562人	2,412人	3,300人	2,869人
一日平均	119.5人	118.3人	94.9人	89.3人	117.9人	95.6人
前年同月比	102%	86%	93%	81%	91%	117%

□活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者	2,622人	3,063人	3,563人	3,885人	2,514人	2,891人
一日平均	90.4人	102.1人	122.9人	129.5人	83.8人	99.7人
前年同月比	89%	108%	105%	106%	91%	94%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者	3,121人	3,015人	2,179人	2,084人	2,895人	2,472人
一日平均	104.0人	104.0人	80.7人	77.2人	103.4人	82.4人
前年同月比	102%	87%	94%	81%	93%	138%

□ 年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総数】

	22年度	23年度	増減率
来館者数	43,122人	39,216人	91%
利用者数	34,959人	34,304人	98%
相談件数	494件	497件	101%

※ 参議院議員・市議会議員選挙の期日前投票（22年度）および中高生の利用制限（23年度）に伴い、利用者が減少している。

※ 味の素スタジアム避難所での相談件数は含まれていない。

【利用内訳】

	22年度	23年度	増減率
活動	2,792件	2,726件	98%
会議、打ち合わせ	1,197件	1,110件	93%
パソコン利用	4,061件	4,171件	103%
学習	5,613件	5,926件	106%
その他	1,166件	869件	75%
展示	12件	10件	

(2) ブランチ来所者数

拠 点	来所者数		スペース利用件数	
	人数	一日平均	件数	一日平均
小島町コーナー	4,807人	15.5人	736件	2.3件
菊野台コーナー	2,264人	15.0人		
富士見コーナー	2,526人	19.0人		
染地コーナー	4,836人	20.0人		
緑ヶ丘コーナー	3,298人	23.5人		
西部コーナー	3,181人	14.6人		
合計	20,912人	17.9人		

(3) メールボックス、ロッカーの貸し出し（国領）

活動室内に設置されているロッカーおよびメールボックスを希望する市民活動団体に貸出し、その運営管理を行った。

内 容	22年度	23年度
メールボックス利用件数	46件	45件
ロッカー利用件数	97件	98件

2 ボランティア保険・行事保険の加入受付

ボランティア保険への加入促進の呼びかけと加入手続きの事務を取り扱った。

ボランティア保険加入者数（通年保険・受付随時）		5,042人	
行事保険加入件数	A型（日帰り行事）	995件	20,242人
	B型（宿泊行事）	17件	325人

3 無線 LAN スポット運営（小島町）

平成16年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター2階フロアに設置。これにより活動室、会議室、交流スペースなど2階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になっている。

- ① サービス名：Free Spot（フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社）
- ② 方 式：IEEE802.11b
- ③ 利用方法：窓口で利用規約および利用登録申請書入手。（あるいはホームページよりダウンロード）規約に同意し、申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、利用マニュアルを参照して各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

結果の概要

- 利用登録者数148人。
- フリースポットを設置しているという情報が広まったうえ、調布駅前に位置する利便性から、市民活動団体より個人利用者が多く登録している。個人がインターネット検索に利用したり、メール送受信、またはインターネット回線を利用しながら仕事をしたりするために登録することが多い。
- 個人で利用できる LAN スポットエリアが、受付カウンター前の4人掛けテーブル1ヶ所に限られているため利用しにくい面があり、リピーターの利用は少ない。

4 無線 LAN スポットの設置・運営（国領）

センターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを市民活動支援センター活動スペースはばたきに設置。これによりセンター内 O A コーナーだけでなく、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能となっている。

- ① サービス名：Free Spot（フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社）
- ② 方 式：IEEE802.11b
- ③ 利用方法：窓口で申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、貸し出し用パソコンまたは各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

分析・課題等

- 外部からの不正アクセスなど、セキュリティ面を考慮し、暗号化キー(WEP)を定期的に更新するかどうか検討する。
- フリースポットを利用しにくる方もおり、今後も継続して提供する必要がある。

5 電話対応代行サービス（国領 有料サービス）

平成17年度より、市民活動団体の支援サービスとして、活動やイベント・講座等に関する問い合わせ、受け付けの電話対応代行サービスを実施している。

利用料金	1,000円/月（サポーター会員は800円/月）
利用団体数	平均月5団体（通年利用4団体、そのほかスポットで4団体）
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の活動に関する問合せ応答代行 ・ 行事、講座などへの内容照会および参加申込受付代行

分析・課題等

- 昨年度と比較し、申し込み団体数が5団体減少し、通年利用の団体が2団体増加した。そのため毎月4団体以上の利用となり、利用を続けている団体にとって利便性を高く評価していただいている。
- 新規団体は2団体あったが、いずれも短期間の利用だった。受入れ団体数に限度はあるものの、多くの団体に活用していただきたいサービスのためセンター利用団体を中心に市内活動団体への周知をする必要がある。

6 NPO法人設立・運営に関する講座

社会課題の解決に取り組むべく、組織的に活動するNPOの活動を支援し、あたらしい活動、あたらしい団体の誕生を支援することを目的としてNPO入門講座・NPO法人設立講座を実施した。また、昨年度実施の市民活動支援に関するアンケート調査においてニーズの高かった「情報」に関する支援の一環として、団体の広報力アップを目的に広報に関する講座を開催した。

(1) NPO入門講座・NPO法人設立準備講座

NPOについての説明、特定非営利活動促進法の解説、法人化の意義、必要な実務、特定非営利活動法人(NPO法人)として活動している団体の体験談などを学ぶ講座を隔月で実施した。(全6回)

結果の概要

- これまで夜間の時間帯のみの開催だったが、昼間や土日の時間帯での開催希望の声もあり、本年度は2回(第3回・第4回)を土曜日の昼間の時間帯での開催に変更した。しかし、受講者は夜間帯の開催よりも少ない結果となった。
- 参加者の求めるものが「NPOとは何かを知りたい」ということから「具体的な手続きを知

りたい」ということまで幅が広く、2時間ですべての方の満足度を上げていくのは難しくな
 ってきている。

○昨年度計画停電の影響で実施できなかった2部構成の企画を9月に開催した。参加者が少な
 かったが、参加者と講師がざっくばらんに話すことができた。

○本年度から市民活動支援センターの担当職員が変わったこともあり、ゲスト講師とのやりと
 り、時間配分や配布資料など毎回試行錯誤を積み重ねている。

○平成24年4月のNPO法改正を踏まえ、年度の後半から講義の内容の中でポイントとなる
 内容をいくつか盛り込んで説明した。

	日 時	会 場	参加者数	参加費 (資料代)	講 師
第1回	5月24日(火) 午後7時～9時	市民プラザあくろす 研修室2	10人	500円 ※第3 回のみ 交流会 参加の 場合は 参加費 1,000 円	<事例紹介> ○横山泰治氏(NP ○法人市民活動推 進協会理事長) ○小林孝氏(NPO 法人ちょうふこど もネット理事長) <講義> 市民活動支援セン タースタッフ
第2回	7月14日(木) 午後7時～9時	市民プラザあくろす 会議室1	8人		
第3回	9月10日(土) 午後1時30分 ～4時30分	市民プラザあくろす 会議室1	3人		
第4回	11月19日 (土) 午後1時30分 ～4時30分	市民プラザあくろす 会議室1	3人		
第5回	1月31日(火) 午後7時～9時	市民プラザあくろす 会議室1	5人		
第6回	3月27日(火) 午後7時～9時	市民プラザあくろす 会議室1	8人		

分析・課題等

○これから法人設立を考えている方やNPOに関心のある方を対象にした内容でNPO入門
 講座を開催してきたが、次年度は既にNPO法人を運営している団体などを対象にした内容
 も企画していきたい。

(2) 広報の極意を知ろう！チラシづくりを超えるチラシ講座

日 時	第1回：2月4日（土）午後1時～5時半 第2回：2月25日（土）午後1時～4時		
会 場	はばたき	参加人数	15人
費 用	2,000円		
講 師	調布市行政経営部広報課広報係 主任 島田亜美氏（1日目） ジェイ・ライン株式会社 Web&ブログプランナー 大熊雅樹氏（1日目） サンケイリビング新聞社東京本部編集長 和田直子氏（1日目） 有限会社パンデコングラフィックス代表デザイナー原子尚之氏（1・2日目）		
内 容	<p>□1日目</p> <p>講義：「情報発信の工夫」（島田氏） 「講師の方々のメディア掲載の方法」（大熊氏、和田氏） 「調布市の広報媒体」（横山委員） 「視覚的アピールに関して」（原子氏）</p> <p>ワーク：参加者同士でヒアリングをする。 ヒアリングをもとに相互のチラシを作成する。</p> <p>講評会：作成したチラシに対してのアドバイス（大熊氏、和田氏、原子氏）</p> <p>□2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が宿題として作成した自分の団体のチラシを発表する ・発表されたチラシに対して、良いと思ったチラシに画用紙を貼り、コメントを付ける。 ・原子氏からチラシのアドバイスをいただく 		

結果の概要

- 昨年度の「市民活動支援に関するアンケート調査」で、団体へ行った調査結果では、市民活動支援センターの支援機能のうち、特に力を入れるべき機能として「情報に関する支援」を32.3%の団体が選択していた。これを受けて、広報部会で広報講座を企画し実施した。
- 各種のメディアに精通したゲストにお越しいただいたことによって、チラシだけではなく広報そのものについて学べる内容にすることができた。
- 参加者同士でチラシを作り合うことや発表すること、プロの方から講評をいただくことで、様々な視点を取り入れたチラシ作りをすることができた。

7 使用済み切手、カード類の回収

結果の概要

○「使用済み切手、カード類」の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付・回収された切手・カード類は、ボランティア団体の協力により整理され換金している。

種類	売上げ金額	換金日	備考
切手類	43,020円	平成24年2月21日	日本通常切手（台紙あり） 1 kg 600円 日本通常切手（台紙なし） 1 kg 1,000円 日本記念切手（台紙あり） 1 kg 800円 外国切手（台紙あり） 1 kg 2,000円 束ね切手
カード類 外国コイン 書損はがき	13,920円	平成24年1月16日	使用済みカード・図書カード・交通系カード 外国コイン 書損はがき
合計金額			56,940円

8 入れ歯リサイクル活動への協力

結果の概要

- 特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会が実施している入れ歯リサイクル活動に協力し、調布市総合福祉センター1階に回収ボックスを設置した。
- この活動によって得られる益金の一部（40%）は調布市社会福祉協議会に配分され、その配分金全額が「えんがわファンド」の資金として活用される。
- 平成23年度は48,218円が配分された。

9 NPO・市民活動団体への情報ペーパー「エンガワンK」配布

結果の概要

- NPO・市民活動団体が日々の運営や活動において、共通の質問や課題としている内容を、A5サイズの紙にまとめた「エンガワンK」を引き続き配布した。栄養ドリンクのように見えるパッケージの裏側に、「会議」、「イベント」、「広報」をテーマに作成している。
- A5一枚で読み易くまとめていることから、多くの市民活動支援センターの利用者の方に読んでもらうことができた。
- 広報講座や各種視察時にも活用した。

内容 テーマ	総合編	地域情報編	グッズ編
会議で悩んで いませんか？	活発な会議とは？ 【内容】 進行についてのアイデア 等 【配布数】約50部	会議しやすい施設と は？ 【内容】 市内の会議可能施設紹 介 【配布数】約50部	会議上手のグッズとは？ 【内容】 会議時に使えるグッズ紹 介 【配布数】約50部
イベント成功 しています か？	成功するイベントとは？ 【内容】 イベント企画時の注意点 等 【配布数】約50部	市内のイベント施設 は？ 【内容】 市内の屋外施設紹介等 【配布数】約50部	イベントお役立ちグッズ とは？ 【内容】 用意しておく便利グッ ズ 【配布数】約50部
広報は上手に されています か？	伝わる広報とは？ 【内容】 広報のアイデア等 【配布数】約50部	市内で広報するには？ 【内容】 広報のアイデア等 【配布数】約50部	広報役立ちグッズとは？ 【内容】 グッズ編 【配布数】約50部

分析・課題等

○新たな内容の検討も今後必要と思われる。

10 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

○平成18年度より実施している助成金プログラム。幅広い分野の市民活動や児童・生徒のボランティア活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

○この助成金は、市民や企業等からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、共同募金配分金、使用済み切手・カード等の販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用している。

(1) 選考

① 選考会の開催状況

開 催 日	5月26日（木）午後7時～9時
会 場	市民プラザあくろす3階研修室2
内 容	各団体から提出された申請書により、助成団体を選考 応募団体24団体の中から、20団体に助成決定

② 選考委員 (敬称略・50音順)

安藤 雄太	市民活動支援センター運営委員、市民活動支援センター長
江尻 京子	特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル連邦事務局長
橋本 郁子	市民活動支援センター運営委員、調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
◎日比生 信義	市民活動支援センター運営委員長
水田 征吾	ちょうふチャリティーウォーク2010実行委員

◎…選考委員長

(2) 助成団体 計20団体 助成総額1,000,000円 (申請順)

	団体名	助成額 (円)	助成内容
1	フラ・ハナレイ	60,000	福祉施設等でのフラダンス発表のための練習部屋使用料
2	染地うたごえ広場	50,000	うたごえ活動時使用のキーボード代
3	NPO法人あんしんシニアサポート (旧:NPO法人相続ケアサポート)	60,000	相続・成年後見・逝去事務に関する知識啓発誌製作費
4	畑づくりボランティア	70,000	農園作業時使用の刈払機、培土器
5	童太鼓倶楽部	50,000	学校の盆踊りや高齢者施設等でのボランティア時使用の桶胴太鼓
6	NPO法人クッキングハウス会	50,000	心の健康講座講師謝礼
7	○△□むすびの会	50,000	地域住民を対象とした歌とピアノのコンサート経費
8	琴仲間「染地」	70,000	創立15周年記念演奏会時使用の琴新絃、絃締め代
9	3年3組	10,000	学童・学校・図書館・児童館・イベント等での読み聞かせ時書籍代
10	調布市立第三中学校吹奏楽部保護者会	90,000	地域に根ざした活動を行う吹奏楽部の楽器購入費
11	NPO法人調布まちづくりの会	50,000	第2回調布ジュニア映画塾経費
12	仙川エンターテナーズ実行委員会	70,000	東日本大震災復興支援イベント経費

13	ピュア・ハート	10,000	地域の子育て中の母親対象のおしゃべり会経費
14	セラピューティック・ケア・調布	50,000	セラピューティック・ケアの無料講習会経費
15	調布CB（コミュニティビジネス）推進委員会「調布アットホーム」	20,000	「調布CBワールドカフェ」経費（チラシ代）
16	青少年の居場所 Kiitos	70,000	自分の居場所を求める青少年の居場所提供にかかる家賃
17	お話しころりん	20,000	調布の民話などを通じた情操教育のための音響備品
18	エールの会	50,000	精神障がい者と家族が楽しむイベント（バスハイク）経費
19	ちょうふ子育てネットワーク「ちょこネット」	50,000	“地域で子育て” 井戸端会議費用
20	ちょうふ環境市民会議	50,000	ちょうふの自然だより印刷代
合 計		1,000,000	

(3) 交流会 ※平成24年度に実施

日 時	平成24年4月14日（土）午後1時00分～4時00分
会 場	市民活動支援センター「はばたき」
内 容	助成団体による報告・交流会

(4) 寄付金等

平成23年度に「えんがわファンド」にいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	金 額
ちょうふチャリティーウォーク2012参加費	104,018円
サポーター会費	135,000円
使用済み切手・カード等販売	105,158円
その他寄付金	2,895円
合計	347,031円

結果の概要

- 一団体上限10万円、総額100万円という、他助成金と比較して小規模な助成金だったが、地域に根ざした活動を行っている多くの団体から応募があった。
- 助成団体と市民活動支援センターとの「顔の見える関係」をつくることを目的に、センター職員が団体の活動を見学し、意見交換を行った。
- 平成23年度の助成で、同一事業の助成期限（3年）を迎えた団体が4団体あった。
- 平成23年度の助成団体のうち、7団体が「ちょうふチャリティウオーク2012」に出展、18団体がポスター展示を行うなど日頃の取り組みを紹介した。
- 助成金を希望する団体に対して、助成金申請書類の基本的な書き方などを助言する講座の企画を検討してはどうかとの意見を選考委員よりいただき、平成24年度4月に助成金申請基礎講座の開催を予定している。市民活動団体がえんがわファンドに限らず他の助成金を活用して自立した運営に向けてステップアップしていくことを応援したい。
- ファンドの増額など今後のえんがわファンドのあり方を検討していく必要との意見も挙げられている。

分析・課題等

- 安定したファンド運用に向けての様々な資金調達方法など今後のえんがわファンドのあり方を検討していきたい。

第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

結果の概要

(1) ボランティア団体登録状況

情報登録団体 334団体

小島町コーナー登録団体 113団体

※小島町コーナーについては印刷機、ボランティア活動室の利用が登録団体のみ認められるため登録制度を残している。情報登録団体とも一部重複。センターおよび小島町以外のブランチでは登録制度をとっていないが各地域での活動団体の把握としては、ボランティアまつり、小地域交流事業実行委員会への参画団体、連絡会参加団体をもっとも適切なデータと思われる。

(2) ボランティア活動状況

保険加入者数 5,042人

※登録制度をとっていないため、ボランティアの活動状況を把握するにはボランティア保険

の加入人数が実態に近いと思われる。この中には、施設等でボランティアを長年継続して活動されている方など、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。1回のみでの活動あるいはサマーボランティアなど短期間限定的な活動であっても保険へ加入するのでスポットで活動した方もカウント可能。ただし、必ずしも調布で加入した方が調布で活動するとは限らず若干の相違が生じるとと思われるが、反対に調布以外で保険加入した方が調布で活動される場合もあり、またそのようなケースは少数であるため誤差の範囲内であると考えると最も実態に近い数字といえる。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

① 相談件数

拠点	小島町 コーナー	菊野台 コーナー	富士見 コーナー	染地 コーナー	緑ヶ丘 コーナー	西部 コーナー	合計
相談件数	875 件	33 件	75 件	146 件	90 件	52 件	1,271 件

結果の概要

- 学童クラブへの障がい児の送迎では、行政サービスがスタートし、やや依頼件数が減少しつつある。一方で障がい児を対象とした、放課後に通う「児童デイ」が市内で増え、学校から児童デイに通う児童の送迎の相談は増えてきている。
- 今年度の大きな特徴として東日本大震災に関する多様な相談があげられる。被災者支援やボランティアを希望する人、寄付の申込み等の調整に追われた1年であった。またボランティア保険についての問い合わせ、申し込みの対応が多かった。

分析・課題等

- 精神障がい者や知的障がい者の方達が社会参加を目指す一歩として、ボランティア活動を希望する状況がある。受け入れが難しい中、現在活動先として切手整理サークルが一手に受け入れを担っているが、今後障がいのある方達を受け入れ共に活動する団体の立上を検討していく必要がある。
- 切手整理サークルは、市民の方や企業、行政など多くの方々からご寄付いただいた使用済み切手、使用済みカードを整理する団体であるが、活動は切手整理にとどまらず、最近では日中独居の方や、高齢者の交流の場として重要な役割を担っている。
- ボランティア団体の高齢化が進み、後継者の育成を希望しているが、既存の団体に賛同し活動に参加することより、自分の思いで新たに団体を立ち上げたい若者達が増えてきているため、団体の後継者育成が難しい。
- ボランティア団体の中には、一人暮らしをしている高齢者や認知症の症状がみられるメンバーを抱えた団体が増えつつある。ボランティア活動の場である一方、メンバー相互間で見守りするなど、サロンの場ともなっている。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

結果の概要

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティアガイダンスを各ブランチで開催した。

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ	事業協力者
小島町コーナー	4月27日（水）	6人	2人	0人
	7月28日（水）	7人	2人	0人
	10月26日（水）	8人	2人	0人
菊野台コーナー	10月4日（火）	3人	1人	1人
	2月25日（土）	4人	1人	1人
富士見コーナー	6月23日（木）	3人	1人	0人
	12月1日（木）	0人	1人	0人
染地コーナー	4月15日（金）	2人	1人	1人
	9月30日（金）	2人	1人	1人
	3月16日（金）	0人	1人	1人
緑ヶ丘コーナー	7月16日（土）	3人	3人	1人
	1月28日（土）	5人	2人	0人
西部コーナー	5月27日（金）	1人	1人	0人
	11月19日（土）	0人	2人	10人

分析・課題等

（小島町コーナー）

- 今年度、小島町コーナーで入門講座を開催するようになり2年目。今年は、回数を昨年度より増やして開催したが、調布駅前という立地の良さと、市報による広報の成果もあり、3回とも参加者が多かった。
- 昨今、団塊の世代が大量に退職を迎え、60代の方々が地域に戻って活動を始めることを想定していたが、実際には、仕事を続ける方が多く、生活に余裕ができボランティア活動に関心を示し、ガイダンスに参加した方達の年代を見るとほとんどが70代であった。
- 参加者すべてが活動につながったわけではなかったが、ボランティアについての基礎知識、活動する上での心構え、調布のニーズ状況、市民活動支援センターの存在、等々を知っていただく良い機会となった。

（菊野台コーナー）

- 調理ボランティアの必要性に迫られていたので高齢者会食ボランティアの活動に繋がった。日本語ボランティアの活動に参加した人も何人かいた。

（富士見コーナー）

- ガイダンスで紹介したグループの中で希望していた活動が見つかり2名の方がつながった。

一人でも多くの方に市内のボランティア活動を知ってもらうために今後も継続して行いたい。

(緑ヶ丘コーナー)

○参加人数は大きく変わらないが、いつか参加したいと思い、やっと参加できた。という方がいた。定期的に、市内のどこかで開催していることの意味があると思う。参加者は開催地域とは限らない。

(西部コーナー)

○11月は「土・日に活動したい方のためのボランティアガイダンス」をたくさんの方の協力を得て企画したが、参加者がなかった。現役世代の活動のきっかけになればと考えたが、今後ニーズ把握や広報等に工夫の必要がある。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 専門家による高齢者・障害者世帯の無料家具転倒防止工事の受付

結果の概要

災害時の家具転倒対策が自力では難しい高齢者・障害者世帯を対象に、建設産業に従事する職員の労働組合「東京土建」が無料で実施する、家具転倒防止工事の広報と受付を行った。

作業日時	11月20日(日) 午前10時～正午
対象者	市内在住の高齢者(65歳以上)・障害者のみの世帯
内容	一室分の家具の転倒防止金具の取り付け作業
作業数	5世帯(定員20世帯)
料金	1世帯につき2箇所まで無料
主催	東京土建一般労働組合調布支部

分析・課題等

○阪神・淡路大震災では、犠牲者の80%以上が家具による圧死との事例があり、家具転倒防止作業は有効な防災手段となっている。しかし、高齢者や障がい者のみの世帯では対策をとることが難しいため、そうした方々を対象に、工事を無料で行っていることは非常に有意義なことだと思われる。

○東日本大震災から8か月ということもあり、多くの応募を予想していたが、前年度を下回る結果となった。この工事が壁に穴をあける作業が必要なこともあり、家主の了承を得られずに申込を断念した方もいた

○一人暮らし高齢者や障がい者等家具転倒防止工事のニーズがある人々に、情報が伝わるよう福祉関係の事業所と連携を図りながら、今後も当事業の有効性を高齢者や障がい者のみの世帯に広報し、より多くの世帯が作業を受けられるようにする必要がある。

2 平成23年度調布市総合防災訓練への参加

結果の概要

いざというときの対応に備えるシミュレーションとして、調布市が実施した防災訓練に参加した。

日 時	10月23日（日）午前9時～11時30分
会 場	調布市立第三中学校
内 容	(1) ボランティア活動訓練 (2) 応急救護所トリアージ訓練 (3) 避難所運営訓練 (4) 給水訓練 (5) 救援食料輸送訓練 (6) 要望等アンケート調査 (7) 炊き出し訓練 (8) 二次避難所開設・受入訓練 (9) 要援護者体験訓練
参加者数	都立調布南高校生徒21人
協 力	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会

結果の概要

- 今回、調布南高校の生徒がボランティアとして各種訓練に参加した。要望等アンケート調査については、生徒2～3名を1組で総合防災訓練に参加している市民約50人にインタビュー形式で聞き取りを行った。
- 当日は災害部会の運営委員の方々にご協力いただき、市民活動支援センタースタッフや調布災害時ボランティア・コーディネーターの会スタッフと連携を図りながら、中高生ボランティアをコーディネートすることができた。

分析・課題等

- この訓練実施にあたり、市の総合防災安全課と何回か担当者レベルで打合せを行ったが、災害部会の運営委員の方々と一緒に事前段階から打合せや準備を重ねることで、より内容が深まると思われる。もう少し早い段階から総合防災安全課と打合せができていればより内容を充実させることができたのではないかと。
- 総合防災訓練以降も2月に調布市主催の防災関係機関意見交換会に参加した。東京都の「災害時におけるボランティア活動支援の流れ」によると、被災後2日以内に区市町村の災害ボランティア活動拠点を立ち上げることになっている。総合防災安全課など関係部署と日頃から定期的に協議や情報共有の場を持つことで、総合防災訓練をより充実した訓練にしていきたい。

3 やあやあドリームオールスターズ「こどもあそび博覧会9」実施協力 ※中止

結果の概要

- 学校と地域の連携を深め、「地域で子どもを育もう」という視点で、市民活動団体が中心となって実行委員会を立ち上げ開催したイベントへの共催。
- 市民活動団体や個人が、体験型・参加型のさまざまなブースを設け、親子や友達同士また地域の人たちとふれあいながら気づきを得られる場として毎年実施している。
- 本年度は荒天のため中止した。

日時	10月15日（土）午前10時～午後3時 ※中止
会場	調布市立石原小学校
主催	やあやあドリームオールスターズ2011実行委員会
共催	やあやあネットワーク、社会福祉法人調布市社会福祉協議会
協賛	調布市
協力	調布市立石原小学校、長野県木島平村
後援	調布市教育委員会

(1) 参加チーム一覧

チーム名	参加内容
染地剣道会	・参加者は着衣の上から胴衣と袴を着け（希望者のみ）、さらに小手・面・胴を着装する。面の上に「紙風船」を取り付けて互いに竹刀で打ち合います。その他防具・写真の展示
手話サークルくすの木	・参加された方々に簡単な手話指導（例：あいさつ、名前） ・体験を通して一般の方に聴覚障がいをご理解いただけるように啓発を行う。
菊野台点字サークル	・点字で名刺を作成する。
電通大「おもちゃの病院」	・壊れたおもちゃ、壊してもいいおもちゃを持ち寄り、先生と子どもたちと一緒に分解・修正し、動く仕組みを学ぶ。
東京お手玉の会	・マイお手玉を作る。 ・いろいろな遊び方を覚える。 ・級位に挑戦する。
セラピーサークル マダムポアン	・スライム作成体験
特定非営利活動法人 ちょうふこどもネット（CAPS）	・ダンスの振り付けを教え、最後にみんなで合わせて踊る。

調布女性ヒューマンイズム会議	・子ども人権に関するユニセフのパネル展示とビデオ上映
川井収のテニス学校	・ミニテニスコート（ミニラケット、スポンジボール使用）
特定非営利活動法人 d o b eくらぶ	・パソコンのペイントでじぶんだけのマークでデザインを作りプリクラシールを作る。
調布市民放送局（C A T C H）	・被災地へメッセージビデオ製作
FC 東京	・キックダーツ、各種クラブPR他
スーパー紙とんぼの会	・3×9cmの補強付き。おもり付きのスーパー紙とんぼ作りと、飛ばし方の指導
特定非営利活動法人 市民活動推進協会 野遊びくらぶ	・身近なものを使用した野遊び体験ブース
日本和紙造形研究所	・被災地へ KIZUNA タペストリーを製作して送る。
調布市サウディアラビア友好会	・アラビア語で名前を書いてみよう！うまく書けた人には現地でしか食べられないおいしいデイツをどうぞ！
折り紙仲間	・簡単な折り紙を折って遊ぶ
調布の自然学習ボランティア	・どんぐり工作、竹笛、シュロの葉でバッタ作り
調布水辺の楽校	・多摩川の魚・生き物展示、ストーンペイント
調布少年少女センター	・紙コップと割り箸で「紙コップター」を製作。
首都圏建設産業ユニオン 調布支部	・「子ども大工さんコーナー」 “木と触れ合おう” ・子ども棟上げ式 ・大工体験コーナー
木島平村	・自然木を使用した工作（イス作りなど）
木島平村新鮮屋	・信州名物「おやき」の販売
ちょうふネットテレビ	・紙の上に素材の絵や物をのせ、動かし、コマ撮りする。
調布市体育指導委員会	・ドッチビー
さるすべり	・目が不自由な人の体験をしながらの卓球
特定非営利活動法人 調布市地域情報化コンソーシアム	・広報協力
ヒッポファミリークラブ	・親子で様々な国の言葉の音楽でやさしいダンス、ゲーム ・写真展示

調布市立石原小学校	・会場提供
特定非営利活動法人 ちょうふどっとこむ	・広報協力
調布わいわいサロン	・手作り遊び、昔遊び、ゲームコーナー
わりばしリサイクルグループく るりん	・割りばし回収ボックスの設置
染地ボランティア連絡会	・昔遊び、焼そば販売、染地地域のボランティア団体紹介
調布美術研究所	・入口装飾
個人	・わたあめ販売
キャラクターワークショップ	・オリジナルキャラクターぶら下げマスコット作成
TAMA-UNITE（多摩ユナイト）	・ギター演奏・レッスン、ギター歌、ミニカップ麺販売
石原小学校地区協議会	・防災訓練

(2) 実行委員会開催状況

回数	実施日	会場	内容
第1回	6月16日（木）	市民活動支援 センター	開催地の交渉状況、参加チーム紹介、実行委員会役員選出、当日の会場
第2回	7月21日（木）	市民活動支援 センター	参加チーム・備品確認、ブースレイアウト、オープニング企画、飲食ブースについて、今後のスケジュール
事務局 会議	8月25日（木）	市民活動支援 センター	参加チーム・備品確認、ブースレイアウト
事務局 会議	9月 8日（木）	市民活動支援 センター	会場・広報・参加チームの確認、今後のスケジュール
第3回	9月28日（火）	市民活動支援 センター	事前折衝経過説明、参加チームの確定、当日スケジュールについて、チラシ仕分け作業（市内全小学校別に児童数分に仕分け）
第4回	10月6日（木）	市民活動支援 センター	前日及び当日の運営（ブース出展、人員配置など）、会場レイアウト、スタンプカード・スタッフバッグづくり

分析・課題等

○当日の天候が強風と豪雨だったため、中止となった。今後も地域に開かれた学校となるよう

働きかけをすすめる。

4 ちょうふチャリティーウォーク2012の開催

結果の概要

- 寄付文化の醸成、市内企業のネットワークと地域との連携づくりを目的に実施。
企画、運営を実行委員会方式とし、地域企業・団体との協働により実施した。
- 東日本大震災から1年経った3月11日に開催し、市内の防災の拠点をめぐるコースを設定することにより、参加者に復興への新たな思いと防災の備えの大切さを伝えることができた。

開催日時	3月11日（日）午前9時～午後3時				
会場	調布市役所（文化会館たづくり・アフラック間道路）および市内各所				
参加者	272人	当日運営 スタッフ	168人	参加費	一人600円 （中学生以下200円） 参加費のうち100円は東日本大震災義援金として寄付
主催	ちょうふチャリティーウォーク2012実行委員会				
共催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会				
後援	調布市、調布市教育委員会				
実行委員会 参加企業 および 団体	日本マイクロソフト（株） 明治大学体育会硬式庭球部 林建設（株） フラ・ハナレイ 味の素スタジアム ○△□むすびの会 東京ジューキ食品（株） 3年3組 角川映画（株） 仙川エンターテナーズ実行委員会 高津装飾美術（株） 調布CB推進委員会「調布アットホーム」 野村證券（株） お話しころりん 日綜コミュニティ（株） ちょうふ環境市民会議 （有）管理人代行サービス NPO法人調布まちづくりの会 アクラブ調布 琴仲間「染地」 フューチャーズ・テニス NPO法人クッキングハウス UD-Consulting, Inc. 染地うたごえ広場 （株）ナムコ 府中東高校和太鼓部 府東打撃團 FC東京 （株）ウィード マニユライフ生命保険（株） 調布市せんがわ劇場 （有）調布清掃 調布エフエム放送（株） 茨木商事(有) エールの会				

	(株)内田平和堂 調布消防署 調布市観光協会 NPO 法人ちょうふどっとこむ NPO 法人ちょうふこどもネット 畑づくりボランティア セラピューティック・ケア・調布 ちょうふ子育てネットワーク「ちょこネット」 ピュア・ハート 青少年の居場所 Kiitos NPO法人あんしんシニアサポート 童太鼓倶楽部 中華街	調布市立第三中学校吹奏楽部保護者会 電気通信大学ボランティア部 調布市立調布中学校 調布市立石原小学校 東京都水道局 調布市役所ボランティア部 ぬくもりステーション 市民活動推進協会 パルコ 川口商店 お茶の田中屋 西山商店 東京都生活協同組合パルシステム
チャリティー 金額（参加費 会場内寄付）	106,913円 48,662円	※えんがわファンドの原資として ※東日本大震災義援金として

分析・課題等

(実行委員会より)

- 初回（2008年）から毎年連続で参加者数が大幅に増えてきたが、今回は前回比 65% 下回る 272 名の参加となった。募金総額も 13.5 万円程度と前年比 55%下回る結果となった。参加者減少原因として、開催日 3 月 11 日は東日本大震災一周年ということで、複数イベントとの重複、個人の自粛などが影響したと思われる。前日の悪天候も参加意識を低下させる原因となった。外部要因以外に、前回まで参加者満足度低下の原因となっていた事前参加申し込みを行わなかったことも、参加者減少へ大きく影響したと考えられる。次回開催において参加者数の回復・増大は重要目的になる。
- 参加者の満足度は過去最高の結果となった。4 段階の満足度調査において、「満足」「大変満足」と答えた参加者が昨年からさらに 2 ポイント上昇し（99.3%）に達した。「大変満足」の総合結果が 17.6 ポイント向上したことは注目に値する。好結果をもたらした原因として、今回の目的のひとつであった被災地の復興への思い、災害対策に関する知識の向上が各所のイベント（展示・体験）を通してしっかり参加者に伝わった事が第一に挙げられる。子どもたちが楽しめる内容も充実していた。参加者の声のなかに「スタッフの笑顔や声掛け、対応がよかった、素晴らしかった。」というフィードバックもたくさんいただき、多くの参加者がスタートからゴールまで気持ちよくウォークラリーを楽しんでいただけたことが充分伝わるものでした。当日のスタッフ・ボランティアの意識の高さもちょうふチャリティーウォークの良さと言える。
- 運営面において事故がなかった。
- イベントを無事予算内に納めることができた。「地域の主体的および公共的な市民活動を支

える寄付文化の醸成」のため、気軽に誰でも楽しく参加できるこのちょうふチャリティーウォークを、地元の団体・企業・個人が協力し合いながら開催していく事で、更なる連携強化が行われ、東日本大震災で実現した協力体制が今後もさまざまなシーンで期待できる。

5 北多摩南部ブロック（調布・府中・三鷹・小金井・狛江）ボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

○他地区センターと事業共催することにより連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的に多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。これまで、環境（14年度、15年度）や国際交流（12年度、13年度、16年度）、NPO講座（17年度、20年度）、奉仕体験（18年度）、災害（21年度、22年度）をテーマに実施した（19年度は未実施）。23年度は地域のニーズとしても挙がってきている結婚活動（婚活）に関する内容を実施した。

（1）地域密着型婚活プログラム「ひととひとを結ぶ」の開催

日 時	2月5日（日）午後2時00分～8時00分
会 場	調布市市民プラザあくろす（2階会議室1、あくろすホール、調理室）
内 容	当日のパーティーを参加者自身で企画・準備・運営し、その中で交流を深めていく内容。 ①あいさつ、諸説明 ②自己紹介タイム ③グループ行動開始（企画班、装飾班、調理班） ④備品買出し、企画詰め、調理作業、会場レイアウト作成 ⑤パーティー開始（ビンゴ大会、立食交流など） ⑥パーティー終了 ⑦後片付け
参 加 費	2,000円
参 加 者 数	38人
共 催	北多摩南部ブロック5市ボランティア・市民活動センター

（2）北多摩南部ブロックボランティア担当者連絡会開催状況

回 数	日 時	会 場	内 容
第1回	8月4日（木） 午後3時～5時	小金井ボランティア・市民活動センター	共催事業の検討、情報交換
第2回	10月6日（木） 午後3時～5時	小金井ボランティア・市民活動センター	共催事業の検討、情報交換

第3回	11月22日(火) 午後3時～5時	小金井ボランティア・市民活動センター	共催事業の検討、情報交換
第4回	12月12日(月) 午後3時～5時	小金井ボランティア・市民活動センター	共催事業の検討、情報交換
第5回	1月23日(月) 午後3時～5時	市民プラザあくろす2階活動スペースはばたき	共催事業の最終確認
第6回	3月8日(木) 午後3時～5時	小金井ボランティア・市民活動センター	反省会

分析・課題等

○今回、まったく取り組んだことのない新しい内容だったため、進行方法や準備についても手探り状態で進めた。地域のニーズとして婚活が小金井市や府中市などで挙がっていることから実施に至ったが、5市でそれぞれ募集した結果最も応募が多かったのは調布市だった。他の市についてもほぼ万遍無く応募があったことから、ニーズとして高まっていると感じた。内容については、参加者がパーティーを企画するプログラムだったため、事務局で補助する範囲や、参加者の行動制限をどこに設けるのか、など企画に難しさを感じながら進化した。当日は、参加者自身も自分達が進行する意識を持って参加している方が多かったため、グループによって進行に多少の差は出たが概ねスムーズに進めることができていた。終了後のアンケート結果では好評をいただくことができたが、やはり純粋に結婚に結びつくプログラムを求めてくる方には物足りなさの残る内容だった点は否めない。また、こういった内容の事業が地域にニーズとして強く挙がっていることも再認識した。今後は地域のボランティアセンターが実施する意味・強みが活かせる内容を考え、実施していく必要がある。

6 困難な課題を抱える女性のためのIT講座の運営協力

結果の概要

○DV被害や幼児期の虐待体験、外国籍や母子家庭など、さまざまな困難な課題を抱えている女性を対象にパソコンの基礎技術を指導し、社会参加と自立への支援を行う、企業人ボランティアグループの活動支援を行った。

(主催：ITボランティアネットワーク)

開催日時 ※いずれも日曜日	第一期	4月10日, 4月24日, 5月8日, 5月22日 6月5日, 6月19日, 7月3日 (全7回) ①、②開催
	第二期	8月7日, 8月21日, 9月4日, 9月25日 10月2日, 10月16日, 10月30日 (全7回) ①、②開催
	第三期	11月27日, 12月11日, 1月15日, 1月29日 2月12日, 2月26日, 3月4日 (全7回) ①、②開催

内容	ワードコース	ワードの基礎を中心に応用とインターネットの習得 ①午前10時～12時
	エクセルコース	エクセルの基礎を中心に応用とインターネットの習得 ②午後1～3時
参加者数		講座参加者延べ25人（各コース7人定員（第三期は7人定員）） 指導・環境ボランティア8人 保育ボランティア2人

分析・課題等

- 広報にご協力いただいている機関から、就職に役立っているとの声をいただいている。
- 今後の開催について話し合いを進めている。

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

(1) 小・中高等学校ですすめられている「総合的な学習の時間」に対応した。

出前回数	35回	出前先	小学校	29回
受講生	延べ3,574人		中学校	3回
派遣スタッフ	延べ199人		高等学校	3回
開催講座数	その他 0回			
	134講座 ・手話32講座 ・視覚障がい者ガイド21講座 ・点字33講座 ・視覚障がい者理解 1講座 ・盲導犬6講座 ・車いす39講座 ・車いす利用者理解 1講座			

分析・課題等

- 出前講座が市内の特に小学校では周知されるようになり、小学校20校のうち16校の依頼に対応した。また依頼を受けていない学校についても昨年度までの過去数年間の中で対応しており、今まで対応したことのない小学校はない。第一小学校のように、学年を超えての計画があり、3～5年生まで1校で3学年からの依頼に対応するケースもある。
- 小学4年生国語の単元「調べて発表しよう」の中で、教材として「手と心で読む」が取り上げられ、その調べ学習の一環として、点字講座、手話講座を依頼するケースが多い。
- 中学校の場合、私学からの依頼のみで、市内公立中学校からの依頼はほとんどない。しかし今年度、調布中学校が、1年生で「人権」に取り組んだ後、2年生になり「福祉」をテーマとした授業に取り組むに当たり、出前講座の依頼があり対応した。
- 今年度は学校のみでの対応に終わり、職員研修や自治会、児童民生委員会等の研修など社会人を対象とした研修への利用がなかった。今後は活動を広げるためにも、学校以外のところへの広報の仕方を検討していきたい。

2 都立高等学校における教育活動支援業務の実施

結果の概要

○平成19年度より必修化された都立高「奉仕体験」の授業として、出前講座を実施した。

(1) 実施内容

①手話体験

- ・コミュニケーション方法について
- ・聴覚障がい者のお話
- ・ジェスチャーから手話での表現を学習
- ・手話でのあいさつ、会話の練習
- ・日常生活用具の紹介

②点字体験

- ・点字の打ち方、読み方
- ・視覚障がい者のお話
- ・日常生活用具の紹介

③視覚障害者ガイドヘルプ体験

- ・ガイドヘルプの方法について
- ・視覚障がい者のお話
- ・日常生活用具の紹介

④車イス体験

- ・車イスの自走体験及び介助方法（校内にある段差やスロープなど）
- ・身体障がい者のお話

(2) 会場校・対象者

- ・都立調布北高等学校
- ・第1学年 全6クラス 240名

(3) 実施状況

1学年6クラスを対象に手話、車イスの講座を実施し、点字、ガイドヘルプ講座については、どちらか1講座を選択する方法で実施した。

結果の概要

○奉仕体験授業の一環として「福祉」について体験講座を通して学びたいとの相談があり、当協議会で実施している出前講座「手話・車イス・点字・視覚障がいガイドヘルプ体験講座」を実施した。

日程	手話		ガイドヘルプ	点字	車イス	
	I	II			当事者スタッフ	介助スタッフ
9月27日（火）	1組	2組	3組	4組	お話の時間	体験クラス
5時間目					5組	6組
6時間目					6組	5組
10月4日（火）	3組	4組	5組	6組	お話の時間	体験クラス
5時間目					1組	2組
6時間目					2組	2組
10月11日（火）	5組	6組	1組	2組	お話の時間	体験クラス
5時間目					3組	4組
6時間目					4組	3組

分析・課題等

○校舎のバリアを有効活用した車イス・視覚障がいガイドヘルプ体験のプログラムおよびコースの作成、手話および点字について体験プログラムの作成等を支援した。中途視覚障がい者2名、聴覚障がい者2名、中途身体障がい者1名の計5名の当事者スタッフと、ガイドヘルパー、手話通訳者、車イスヘルパーの介助者14名、総計19名のスタッフを紹介。当事者による実生活での出来事、体験談の話、また介助体験、疑似体験の中でアドバイスすることにより、日々の生活で感じ得なかったこと、または見過ごしていたことの気づきを与えることができた。

○どのようにしたら、より障がい者が外に出て過ごしやすい空間が作れるか、高校生にできることは何かについて、考える機会を提供できた。

3 調布サマーボランティア ' 1 1

結果の概要

○中学生以上の方を対象に、夏休み期間を利用したボランティア活動体験を実施した。活動体験の受け入れ先は、市内および都内の福祉施設、社会教育施設や市民活動団体など。東京ボランティア・市民活動センターとの共催により、都内他地区ボランティア・市民活動センターとも連携し、幅広い地域から訪れる活動体験希望者と受け入れ先との調整を行った。

協力団体・施設	内 訳	
	・高齢者関係 12団体 18プログラム	
	高齢者施設	8団体
	老人クラブ	3団体
	ボランティアグループ	0団体
	社協	1団体
	・障がい者（児）関係 14団体 20プログラム	
	障がい者（児）施設	9団体
	ボランティアグループ	3団体
	社協	1団体
その他	1団体	
55団体 ・ 65プログラム		
・子ども関係 22団体 22プログラム		
児童館・学童クラブ	6団体	
保育園	15団体	
その他	1団体	
・環境関係 0団体 0プログラム		
・その他IT・文化など 4団体 4プログラム		
参加者人数および活動別内訳	参加者総数	89人（男性 23人 女性 66人）
	年齢層内訳	中学生 37人 高校生 20人 大学生 5人 社会人 1人
	活動分野別内訳 (のべ数)	高齢者関係 24人 障がい者・児関係 13人 児童関係 39人 国際・環境関係 0人 その他 13人
センターオリエンテーション	開催日時	7月29日(金)午前10時30分～12時
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・概要説明、申込方法 ・体験にあたって注意すべきこと ・ゲストからのお話「相手に合わせたコミュニケーションについて」 (ゲスト：調布市社会福祉協議会ふれあい給食 多門 晶子氏、 調布市希望の家 新田 倫永氏、レオ保育園 原嶋 真佐美氏、 じんだいフェスタ実行委員会 堀 一江氏) ・ワーク「今年の夏ボラの目標」

	参加人数	・体験者 45人
交流会	開催日時	8月24日(水) 午後3時～5時
	内 容	・コミュニケーションゲーム ・ワーク「来年度の参加者に向けてメッセージを書こう！」
	参加人数	体験者 11人

分析・課題等

○オリエンテーションでは、ゲストから「相手に合わせたコミュニケーション」についてお話いただいたことで参加者が事前に体験への心構えが持て、モチベーションをあげることができたことが感想から伺えた。

○今年度は都立神代高校の奉仕体験活動へのサポートとして10施設をご紹介した。そのため今年度から人数に含めていない。次年度も続けて円滑な体験活動実施に向けて協力する必要がある。

第7 その他

1 他団体会議・講座等への委員、講師、パネラーなど職員派遣

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
5月24日(火) ・26日(木)	三菱東京UFJ銀行新任行員研修	三菱東京UFJ銀行／東京ボランティア・市民活動センター
5月18日(水)	図書館ボランティア説明会	調布市立図書館
9月13日(火)	図書館ボランティアミーティング	調布市立図書館
10月31日(月)	認知症サポーターフォローアップ講座「ボランティア活動を始め人のための市民活動支援センター活用法」	高齢者支援室
11月17日(木)	図書館ボランティアミーティング	調布市立図書館
1月27日(金)	地域ケア会議「災害時にこの地域で何ができるのか」	ちょうふ花園
2月17日(金)	避難所災害ボランティアセンター・復興支援ボランティア派遣バス報告	調布市民生児童委員協議会
2月18日(土)	ボランティア説明会	社会福祉法人東京かたばみ会 調布市 ちょうふの里
2月22日(水)	人集めの極意！～効果的な情報発信のコツ～(平成23年度登録団体連絡会)	ボランティア活動センター こくぶんじ

通 年	東京ボランティア・市民活動センター運営委員会	東京ボランティア・市民活動センター
9月15日(木) 3月15日(木)	こくりょう・みんなの広場運営会議	国領小地区協議会
通 年	調布市生涯学習推進協議会	調布市
通 年	コーディネーター連絡会	調布市生涯学習交流推進課
通 年	全国ボランティアフェスティバル実行委員会	東京ボランティア・市民活動センター
通 年	都内ボランティア・市民活動センターセンター長会議、事務局会議ほか	東京ボランティア・市民活動センター

2 職員研修

レベルアップを図るためそれぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

会議・講座名称	参加人数	主催団体
日本NPOセンター初任者研修	1人	日本NPOセンター
NPOと行政の対話フォーラム	1人	日本NPOセンター
全国ボランティアフェスティバル	1人	東京ボランティア・市民活動センター
改正NPO法学習会	2人	調布アットホーム（協力：市民活動支援センター）
災害ボランティアコーディネーター養成講座【応用編】	1人	東京ボランティア・市民活動センター
地域福祉コーディネーター養成研修	3人	東京都社会福祉協議会
クレーム対応能力向上研修	1人	調布市社会福祉協議会

3 視察対応

他地域からのセンター見学および研修依頼に随時対応した。

日 程	団 体 名 等
4月 8日(金)	東京ボランティア・市民活動センター、江東区社会福祉協議会
4月20日(水)	武蔵野市社会福祉協議会、武蔵野市生涯学習振興事業団
5月10日(火)	足立区ボランティアセンター
6月 8日(水)	小金井市役所（市民活動団体リストほか）
6月24日(金)	公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団（実習受入）
8月19日(金)	多摩信用金庫
8月26日(金)	小金井市市民協働支援センター準備室
12月16日(金)	多摩市社会福祉協議会

4 事業協力

他団体等の実施事業に参加、協力した。

日程	事業名称	実施団体等
7月10日(日)	いきいきわくわく体験親子のつどい	全国教育ボランティアの会
7月31日(日)	ときわぎ国領夏祭り	ときわぎ国領
10月15日(土)	マニユライフ生命チャリティラン	マニユライフ生命保険(株)
1月28日(土)	富士見町自治連合会新春のつどい	富士見町自治連合会

第8 調査・研究

結果の概要

- 市民活動支援センターは、平成17年2月の開設から6年が経過した。地域で活躍するNPOやボランティアなど幅広い市民活動を支援するための拠点として、身近で親しまれるセンターを目指し、様々な事業を展開している。今日では、社会貢献活動や自治意識の高まりに伴い、調布市においても多くの市民が地域課題に目を向け、様々な活動に取り組んでいる。加えて、防災、防犯、子ども、福祉、環境、教育など、あらゆる分野において市民活動が広がりを見せるなか、市民活動支援センターの役割もますます重要になってくると考えられる。
- 昨年度、今後の市民活動支援センターの事業展開を模索するなかで、センターに求められる役割や機能を再確認するとともに、より市民活動を促進するために必要な支援機能の充実を検討するうえで、市民活動支援に対するニーズを把握するため、アンケート調査を実施した。
- 本年度は、調査結果をまとめ、調査に協力いただいた団体や利用者、市民のみなさまに向けて調査結果を公表した。本調査結果を踏まえ、その後中長期運営方針の策定や広報講座の企画を立案した。

第9 東日本大震災への対応

1 調布市被災者支援ボランティアセンターの運営

結果の概要

- 原発からの避難者および被災者受け入れ施設として、昨年度3月17日、味の素スタジアム内に東京都が避難所を設置。3月23日より調布市被災者支援ボランティアセンターを開設し5月22日まで運営した。
- ニーズを拾いプログラムを組立て、サイトへ登録して下さったボランティア活動希望者を中心にスタッフを募集。様々なプログラムを展開した。

【立ち上げたボランティアプログラム】

▼子供用プレイルーム

ボランティアスタッフ（高校の先生と学生さん計20名）

▼味スタ周辺まち情報収集

ボランティアスタッフ（中学生・高校生の皆さん計20名）

▼リラクゼーションルーム

ボランティアスタッフ（セラピストの皆さん計20名）

▼学習室・カフェスペース

ボランティアスタッフ（大学の先生と学生の皆さん25名）

▼住居生活相談窓口

ボランティアスタッフ（大学の先生他5名）

▼洗濯ボランティア

ボランティアスタッフ（ボランティアの皆さま計20名）

▼待機ボランティア

ボランティアスタッフ（ボランティアの皆さま計100名）

▼その他

レンタサイクル、炊き出しコーディネート、関係機関や地元企業、団体との連絡調整など
協力いただいたボランティア総数 約1,200名

2 サイト運営

結果の概要

○避難所ボランティアセンター開設時、活動希望者の仮登録（2,841名）や物資の募集などを行ってきた「調布ボランティア情報」サイトの運営から、後継の「今できることから始めよう！続けようこれからも 調布市被災者支援ボランティアセンター」サイトに移行し、活動を続けている。

3 復興支援ボランティア派遣

結果の概要

○岩手県遠野市まごころネットの協力のもと、企業との協働で市民ボランティアを派遣し、復興支援活動を行った。

第1期	7月17日（日）～7月20日（水）	（16名）
第2期	9月21日（水）～9月24日（土）	（18名）
第3期	9月28日（水）～10月1日（土）	（18名）
第4期	10月5日（水）～10月8日（土）	（15名）
第5期	10月12日（水）～10月15日（土）	（17名）
第6期	10月19日（水）～10月22日（土）	（24名）
第7期	10月26日（水）～10月29日（土）	（26名）
第8期	3月1日（木）～3月4日（日）	（15名）

4 その他の活動

6月11日 被災者支援ボランティアセンター活動報告会

12月3～4日 福祉まつりにて「なみえ焼そば」を販売（避難されている方の協力）

12月14日 復興支援ボランティア派遣活動報告会

フリーマーケット出店 義援金集め

ランチミーティング 等

分析・課題等

○被災地の震災の爪あとは、1年経ってなお人々に重くのしかかり、復興への道のりは険しいと言わざるを得ない。非被災地のできることを継続して支援していきたい。